府中市埋蔵文化財調査報告　第27冊

備後国府関連遺跡 1

—第一分冊—

平成 26 年 3 月

府 中 市 教 育 委 員 会

巻頭図版

備後国府関連遺跡（府中市街地：元町付近）空撮写真　　2001年撮影

序

広島県府中市は，広島県東部を流れる芦田川の中流域にあり，現在は「ものづくり」産業が盛んな都市として知られています。そして，歴史をひもとけば，「府中」が示すように，奈良・平安時代に備後国の国府が置かれた地でした。

備後国の国府を確認する発掘調査は昭和57(1982)年度に広島県教育委員会により開始され，府中市教育委員会も，平成２(1990)年度から調査に取り組み，現在に至るまで継続して調査を行っています。調査を積み重ねることで，徐々に国府が置かれた時代の様相が明らかになり，政庁跡など国府の中心部も推定できつつあります。

平成15(2003)年度からは，「府中市国府プロジェクト」として，さらに集中的に確認調査を推進することにしました。この「府中市国府プロジェクト」は，発掘調査により国府中枢域（国庁域）を確認し，住民と共に国府跡の整備・活用の議論をひろげ，国指定史跡を目指すと共に，整備・活用の具体化をはかり，国府跡をまちづくりの核としようとするものです。ツジ遺跡は，国府の中心域に近い部分ではないかと考えられていますが，遺跡周辺は既に宅地化しており，調査面積の確保が困難であることが多く，国庁域の確定には到っていません。このため，平成24(2012)年より「府中市国府プロジェクト」を見直して，国府政庁発見のための発掘調査を引き続き実施するとともに，今までの調査成果をまとめ，ツジ遺跡・元町東遺跡を備後国府関連遺跡として早期の国史跡指定に取り組むことにしました。

本報告書は約30年間にわたる備後国の国府を確認する発掘調査の成果をまとめたものです。この国府の遺跡は，府中市の歴史を知るための資料であるとともに，府中市の原点といえるもので，市民の皆さんにとってもかけがえのない歴史的な財産です。そして，今までの調査の成果を市民の皆さんに還元して，豊かな地域資源として今後に活用するためにも，遺跡を大切に保護していくことが重要と考えています。本書が，今後の文化財保護・活用に役立つとともに，府中市の歴史を語る資料として利用していただければ幸いです。

最後になりましたが，発掘調査にあたり，ご協力・ご指導いただいた関係者の皆さまに，厚くお礼を申しあげます。

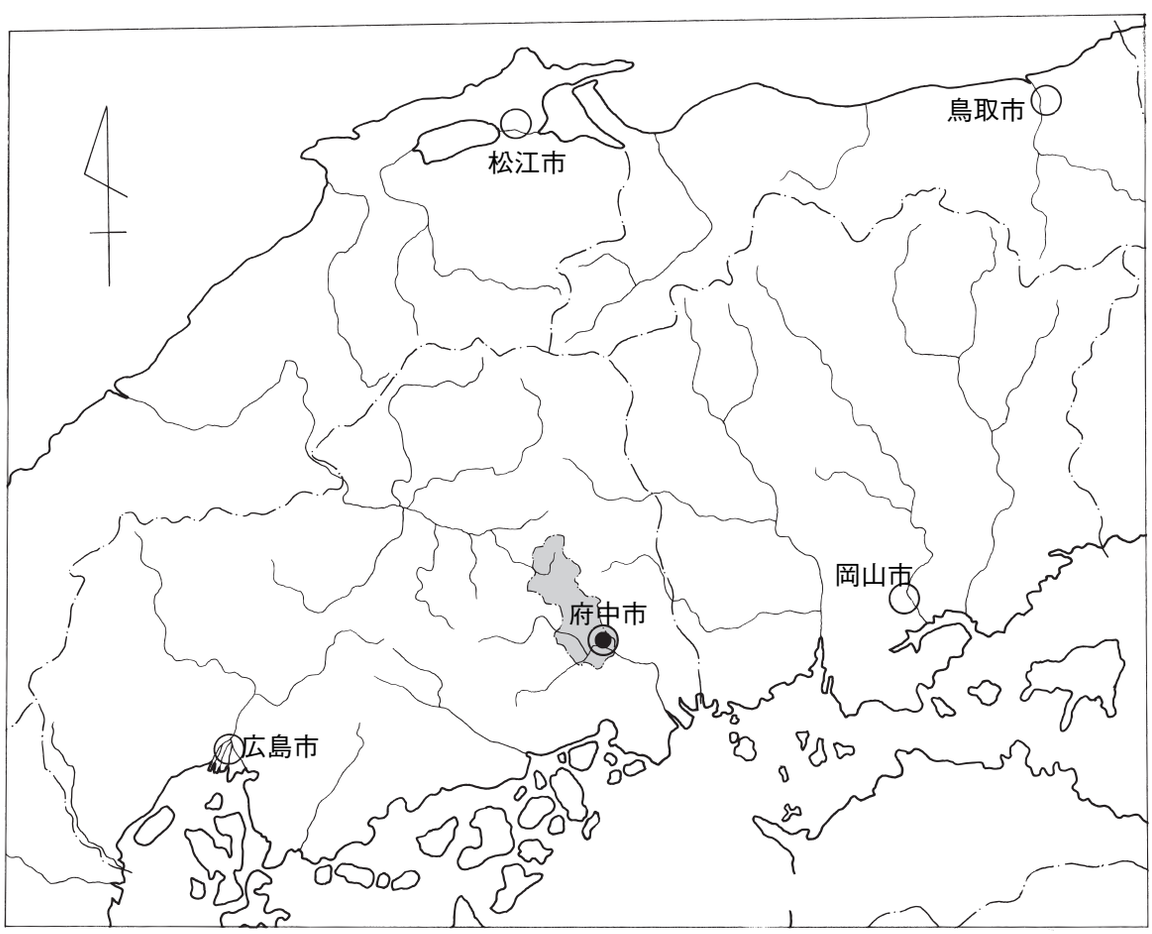
平成26年３月

府中市教育委員会

教育長　平 谷 昭 彦

備後国府関連遺跡 1

—第一分冊—



例　　言

1　本書は，府中市教育委員会が国庫補助事業として実施した「府中市内遺跡」において，ツジ・元町東遺跡および金龍寺東遺跡を中心とした備後国府関連遺跡の調査成果をまとめた総括報告書であり，その第一分冊である。

2　本報告書作成は，府中市文化財保護審議委員会及び同備後国府跡調査研究指導委員会の指導のもとに，府中市教育委員会総務課を主務課として作成した。また，国庫補助事業の実施にあたっては，文化庁文化財部記念物課および広島県教育委員会文化財課と連絡をとり指導を仰いだ。

3　本書は，上記委員会の指導のもと，第１章を石口和男，第２章と第３章第２節・第３節を大上裕士，その他を道田賢志が執筆し，道田が編集を行った。

4　遺物の実測・拓本・集計・写真撮影・一覧表作成にあたっては，橘高利枝，松尾雅子，安原照美，山本奈津子の協力を得た。

5　調査・報告書作成において援助・教示を頂いた方々は，第２章３節に列記している。ご助力に対し感謝する。

6　本書の図１に掲載した地形図は，国土交通省国土地理院発行の１：25,000 地形図（府中・新市・木野山・金丸）を合成縮小して使用した。また，図２・３の遺跡周辺の地形図には府中市都市計画図（1：2,500）を合成縮小して使用した。

7　本書で用いる高度値は標高であり，方位は原則座標北を示す。挿図中の座標表示は，国土調査法による世界測地系（平面直角座標系３系）を基準としている。

8　本書に掲載した府中市教育委員会による調査の記録類および出土遺物等はすべて府中市教育委員会で保管している。

9　本書に掲載した遺物については，基本的には主要なものだけを取り扱っており，それらは既刊の調査報告書からの再掲載である。掲載遺物には，再検討の結果，再実測したものや今回新たに掲載された遺物もあるが，掲載にあたっては既刊報告書図面（トレース原図も含む）をスキャニングによってデジタルデータ化し，それを用いて版組みを行った。

10　調査成果の事実報告にかかわる部分の年次表記は，煩雑さを避けるため西暦で表記した。

【凡例】

1　本文中の表記に用いた遺構略号は次のとおりである。

SA：柵列　SB：建物跡　SD：溝　SE：井戸　SK：土坑　SX：性格不明遺構

2　本文中の調査名称については次のとおりである。

a．府中市埋蔵文化財調査団および府中市教育委員会による保存目的調査

調査年度とトレンチ番号を組み合わせ　例1）1990年度01Ｔ・・・9001Ｔ

例2）2010年度02Ｔ・・・1002Ｔ

b．広島県教育委員会等による保存目的調査

調査次数とトレンチ番号の組み合わせ　例1）第1次01Ｔ・・・県101Ｔ

例2）第10次02Ｔ・・・県1002Ｔ

c．開発に伴う試掘確認および記録保存調査

調査年度と遺跡名称または事業内容の略称などの組み合わせ

例1）1988年度砂山遺跡：都市計画道路建設・・・88砂山街路

例2）2001年度ホリノ河内遺跡：市道改良工事・・・01ホリノ

3　本文中の報告書の略称は次のとおりである。

広島県教育委員会・広島県立埋蔵文化財センター・財団法人広島県埋蔵文化財調査センター編

『備後国府跡』1983～1992・・・「県備国1～10次」

府中市埋蔵文化財調査団・府中市教育委員会編

『備後国府跡』1989・1992・1993・・・「市備国88・90・91」

府中市教育委員会編『府中市内遺跡』・・・「府市1～17」

4　図の縮尺は，下記のようになっている。

〈図〉　遺構：全体図　1/500～1/50，遺物：1/6～1/1

5　本文中で記してある出土遺物量の単位について，一定量以上の出土量がある場合，単位を●箱といった収納箱（コンテナ）数でその概数を示す。収納箱の容量は，次のとおりとする。

コンテナ小：容量約13ℓ（34×54×7cm）

コンテナ中：容量約18ℓ（34×54×10cm）

6　遺物の器種名は一般名称に従うが，必要に応じ，～磁，～焼などの種別を付している。

7　時期の呼称は，一般的時代区分の名称を用いるが，弥生時代から古墳時代の移行期については弥生時代終末～古墳時代初頭と表現する。古代以降は暫定的に奈良時代～平安時代中（10～11Ｃ）ごろまでを古代，それ以後，鎌倉時代までを古代末～中世前半，室町時代を中世後半，織豊期～江戸時代を近世，明治～昭和初期までを近代とする。

目　次

第1章　府中市の地理的・歴史的環境
　第1節　遺跡の地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第2節　遺跡の歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第2章　備後国府の研究史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　第1節　近世・明治大正期～昭和期の所在地論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　第2節　広島県教育委員会の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第3章　事業及び調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　第1節　事業の経緯と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　第2節　調査の目的・方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　第3節　調査の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　第4節　作業の方針と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第4章　備後国府関連遺跡の地区および時間軸の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
　第1節　地区の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
　第2節　時間区分の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

図　目　次

第1章2節
　図1　古代の周辺遺跡分布図（縮尺1/50,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第3章1節
　図2　既往調査位置図（縮尺1/20,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第4章1節
　図3　元町周辺調査区及び地区配置図（縮尺1/5,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
第4章2節
　図4　備後国府関連遺跡の土器変遷図（1）（縮尺1/6）・・・・・・・・・・・・・・・・・36
　図5　備後国府関連遺跡の土器変遷図（2）（縮尺1/6）・・・・・・・・・・・・・・・・・37
　図6　備後国府関連遺跡の土器変遷図（3）（縮尺1/6）・・・・・・・・・・・・・・・・・38
　図7　備後国府関連遺跡の土器変遷図（4）（縮尺1/6）・・・・・・・・・・・・・・・・・39

表　目　次

表1　府中市街地遺跡群関連調査・遺跡一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
表2　地区別の調査地一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
表3　時期区分の基準資料と指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

図　版　目　次

巻頭図版　備後国府関連遺跡（府中市街地：元町付近）空撮写真

第1章　府中市の地理的・歴史的環境

第１節　遺跡の地理的環境

府中市は広島県南東部のやや内陸に位置し，市街地は中国山地から瀬戸内海に注ぐ芦田川の下流に広がる沖積平野上に広がる。府中市は海岸から約20ｋｍ離れた内陸部に位置するため，沿岸部の沖積平野のような劇的な地形変化は認められない。発掘成果やボーリングデータから，更新世には平野部のほとんどは大きな河道の一部であったと推定される。その後この河道が埋積するにつれ，平野部に人類の活動拠点が築かれていったと思われる。

府中市のある備後地方は，大きくみると，東西方向は畿内地方と九州地方の中間に位置し，南北方向は山陰地方と四国地方に挟まれ，各時期を通じて各方面から文化的影響を受け，地域独自の文化と混じりあい，複雑な文化伝統を生み出している。そのなかでも府中市周辺は，備後地方の東西・南北の接点的な位置にあり，さらに複雑な様相を見せる。そういった背景のもとで古代には山陽道が通り，国府が設置され，地方都市としての性格ももつようになる。

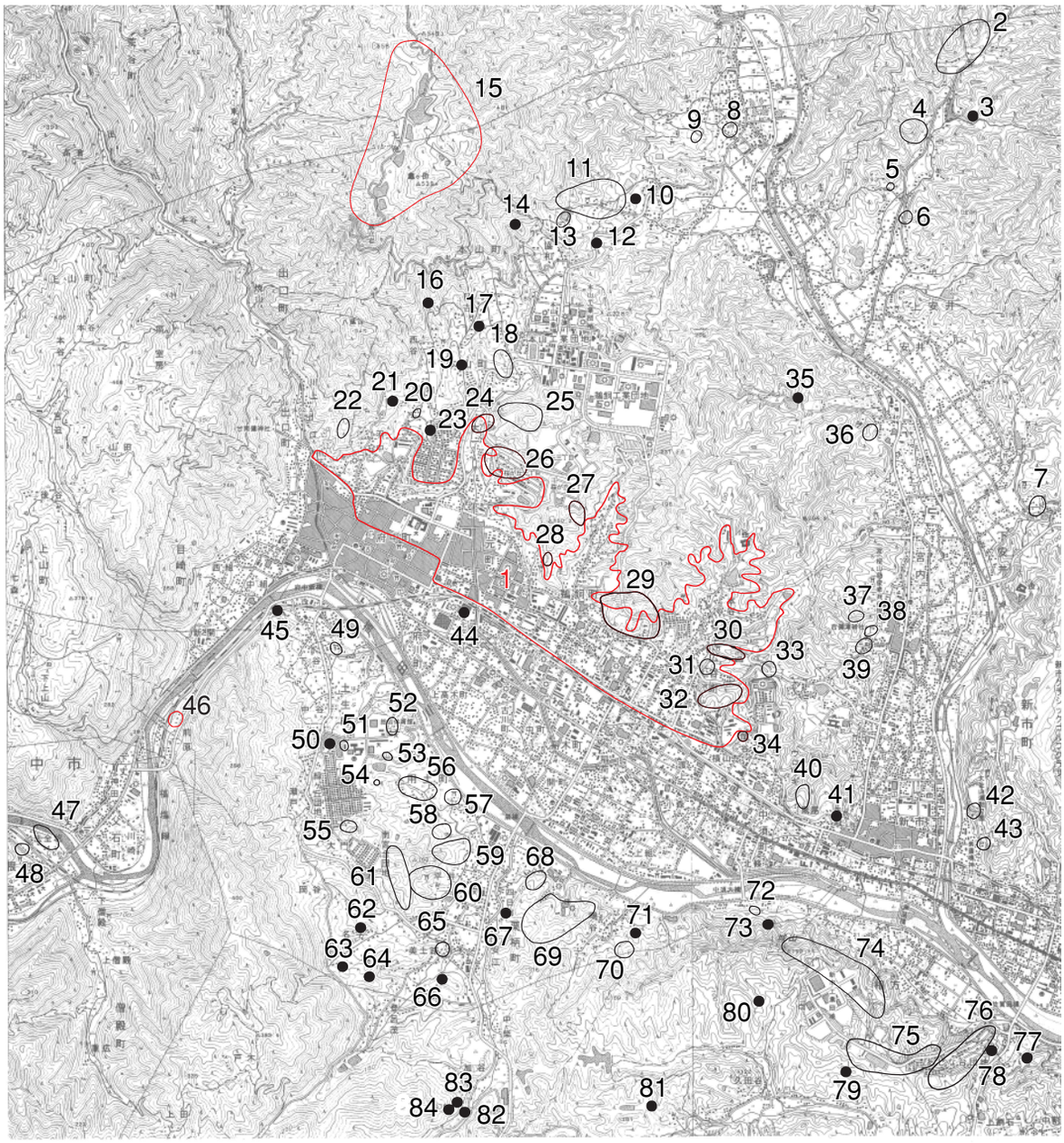
第２節　遺跡の歴史的環境

(a) 古代以前の遺跡

現在，府中市周辺で最初の人類活動の痕跡が窺えるのは福山市新市町宮脇遺跡で細石器文化に属しているといわれている。その後につづく縄文時代早期～前期は，宮脇遺跡を中心にいくつかの遺跡が認められるが，地域全体に遺跡が目立ちはじめるのはやはり縄文時代後期からであり，市内では四日市遺跡（栗柄町），法全坊遺跡（父石町）などが挙げられ，国府関連の調査でも，縄文時代後期の土器が出土している。縄文時代終末～弥生時代初頭に日本列島に水田稲作が伝わると，採集・栽培生活から農耕生活へ生活状況が変化するが，近隣でも福山市新市町神谷川遺跡などにその痕跡がうかがえる。しかし，市内では弥生時代前期以前の遺跡はほとんど確認されていない。[1)]

市内で遺跡が急激に増加するのは，弥生時代中期末以降，とくに弥生時代終末～古墳時代初頭になってからである。法全坊遺跡（父石町）や大久保遺跡（用土町），平井遺跡群・鳴谷遺跡群（栗柄町），平佐遺跡・伊豆迫山遺跡（広谷町），横井遺跡（府中町）が挙げられ，市街地遺跡群内でも下水道工事や国府関連の調査でかなりの量の土器が出土している。また，平野周辺の丘陵上に墳墓・古墳が多く築かれるようになる。前方後円墳や大規模な墳丘墓などは存在せず，ほとんどが小規模な墳墓・古墳というのが特徴で，古墳時代前半期までこの傾向がつづく。個々に独立性の強い小集団が，大きく統合されることなく割拠していたようである。

古墳時代後期になると，大きな平野をひかえる地域では横穴式石室を主体とする群集墳が築かれはじめるが，市内の古墳はほとんどが単独の石室墳である。また，ほとんどの古墳が尾根筋あるいは尾根筋よりやや下った位置に立地しており，前期以来の小首長墳の立地や，群集墳中の中心的系列の古墳の立地に近似する。群集墳を現出させるほどの生産力の飛躍がなく，小首長より下位の階



1 備後国府跡・府中中街地遺跡群　2 神出古墳群　3 尾市1号古墳　4 芦浦古墳群　5 屋敷荒神古墳　6 打部遺跡
7 大森遺跡　8 宮脇遺跡　9 矢倉田遺跡　10 垣手古墳　11 権現古墳群　12 向田古墳群　13 芋平遺跡
14 宝泉坊古墳　15 七ツ池遺跡群（青目寺・常城等）　16 竹田峠古墳　17 日吉中谷古墳　18 ヒランマル遺跡
19 助宗古墳　20 石垣遺跡　21 黒金塚古墳　22 尾立山古墳　23 本山古墳　24 門田遺跡群・古墳群
25 松山古墳・中山遺跡群　26 坊迫遺跡群・山の神古墳群　27 東槇木山古墳群　28 福輪塚古墳群
29 龍王山古墳群・打堀山遺跡群　30 伊豆迫山遺跡　31 平佐山遺跡　32 雄立山古墳　33 別所遺跡　34 岡谷遺跡
35 真光寺池古墳　36 久保田遺跡・古墳　37 輪蔵遺跡　38 吉備津神社裏山遺跡　39 多理比理神社裏遺跡
40 宇呂木古墳群　41 御旅古墳　42 神谷川遺跡　43 神谷川南遺跡　44 鳥居遺跡　45 野屋の木古墳　46 前原遺跡
47 法全坊遺跡群　48 下川辺遺跡　49 後開地遺跡　50 巳の口山古墳　51 巳の口山遺跡　52 城山古墳群　53 森脇遺跡
54 黄番後山遺跡　55 千原遺跡・古墳　56 山手遺跡群　57 御門遺跡　58 大久保遺跡　59 茶臼山古墳群・平井古墳
60 平井遺跡群・御池遺跡　61 長迫遺跡群　62 七御陵古墳　63 名字向古墳　64 寺山遺跡　65 栗柄廃寺
66 ノーラ古墳　67 安江古墳　68 四日市遺跡　69 先厚葉古墳群・厚葉古墳　70 鴫谷遺跡　71 鴫谷古墳
72 向山遺跡　73 首塚古墳　74 城山遺跡群　75 後池遺跡群　76 汐首遺跡群　77 潮崎山古墳　78 汐首古墳
79 曽根田白塚古墳　80 城谷古墳　81 本安寺古墳　82 アテガワテ古墳　83 大迫古墳　84 加谷奥山古墳

図1　古代の周辺遺跡分布図　（縮尺1/50,000）

層での造墓活動が活発ではなかった可能性がある。一方，この時期の横穴式石室の地域的特徴としては，本山町を中心とする石室の一群，黒金塚古墳などがほとんど7世紀代前半の無袖式の石室であるのに対し，栗柄町を中心とする一群，平井古墳などは6世紀代後半の片袖式石室がほとんどである点である。また，打堀山Ｂ遺跡で１つの墳丘に２つの石室をもつ古墳が発掘されたり，東槇木山古墳群で石室から鐶座金具が出土したりするなど，終末段階の石室の調査が進み，国府設置前段階の様相が窺える資料が増えている。

このように弥生時代から古墳時代の遺跡の分布状況からみると，府中市周辺の遺跡はいくつかのグループに分けられる。これらは各時期を通じた地域集団の単位と考えられている。

(b) 古代の遺跡

古代に入るとこれらのグループは郡単位にまとめられ，それぞれ広谿郷，葦田郷，驛家郷，都禰郷，葦浦郷などに編成されると思われる。福山市駅家町近辺や神辺町に比べ，古墳時代後期までは大きな集団の存在が窺えなかったこの地域において，古代には遺跡数が爆発的に増加する。市街地遺跡群に含まれる伝吉田寺跡・金龍寺東遺跡(元町)，寺の下西遺跡(広谷小学校校庭遺跡，鵜飼町)，栗柄廃寺(栗柄町)，後開地遺跡(土生町)，甲奴郡衙跡と推定される下郷桑原遺跡(上下町)などの官衙・寺院関係の遺跡が数多く存在する。平安時代になるとさらに遺跡が増加し，砂山遺跡・ツジ遺跡(元町)などの官衙遺跡だけでなく，一般集落と考えられる打堀山Ｃ遺跡などが，一段高い広めの谷状の緩傾斜地にまで広がっているなど，市街地北半にはほぼ面的に連続した遺跡，市街地遺跡群が形成されていく。一方，市街地南半の自然堤防上には田中遺跡・二宮神社遺跡(府川町)などが形成されて，さらに遺跡が広がっている。このような状況から，府中周辺が備後地方の中心として大きく発展したことが窺える。古墳時代に有力な在地勢力が存在しなかったこの地域が国府設置直前から急激に発展していく現象は，他の国府所在地と比べ特徴的である。国分寺が遠く離れた福山市神辺町に所在することとも合わせて，古代における中央の地方支配のあり方を探る上で重要な資料となる。

古代の遺跡にはこれらの他に，古代山陽道の「葦田驛家」跡と推定される前原遺跡(父石町)，市街地北方亀ヶ岳一帯に存在したと考えられる「常城」と「青目寺」が挙げられる。駅家跡前原遺跡は瓦葺きの築地塀と巨大な建物跡が確認されている。「常城」は『続日本紀』に記述のある古代山城であるが，実態は不明である。亀ヶ岳山頂を中心とした地域に存在した可能性が強い。「青目寺」は平安時代初期に開基されたと伝えられる天台宗の山岳寺院で，数回の調査によって，平安時代初頭～南北朝時代にかけて，七ツ池の存在する谷部周辺の数地点に分かれて，尾根上や山腹斜面を削平して造成した平坦地に建物群が存在していたことが確認されている。平安時代末～鎌倉時代には，中心部が現在の所在地付近に移動したともいわれ，周辺に平安時代～中世の遺跡が広がっている。山頂と平野の中間ぐらいに位置する日吉神社，平野部の伝吉田寺跡と合わせて，比叡山を意識して選地した天台宗の中心拠点であった可能性が高い。

また，国府に関連するものとして総社がツジ・元町東遺跡（元町）の北方丘陵上にある小野神社境内に末社として存在している。

（c）中世以降の遺跡

古代以降，平野部では中世前半まではほとんどの遺跡が継続しているが，中世後半には衰退しはじめて遺跡数も減少する。市街地遺跡群内では六地蔵遺跡，北方丘陵端部では寺院跡と推定される坊迫Ｃ遺跡などが確認されているだけだが，市街地南半では溝手遺跡（府川町）などが存在し，現状の地割りから想定される方形区画を居館跡と推定する考えもある。[2)] 平野の周辺の山塊には，八尾城や幡立山城，鳶尾城，淵上城，茶臼山城などが築かれている。

近世の初め頃には平野部はほとんど農村化しているが，近世半ばをすぎた頃から「府中市村」が福山藩内の交易拠点の１つとして発展し，手工業産地として今日の産業都市の基礎が築かれる。

註

1） 1994 年度の前原遺跡（父石町）の調査や 1998 年度ほかのツジ遺跡（元町）の調査で弥生時代前期後半の土器が出土したり，御池遺跡（栗柄町）では突帯文土器が採集されたりしているが，確実に該期に遡る遺構は確認されていない。

2） 藤木英太郎氏や谷重豊季氏などにより，中村氏の居館跡ではないかと提唱されている。

参考文献

府中市街地遺跡群

①備後国府跡・同関連遺跡（金龍寺東遺跡・ツジ遺跡など）：

豊元国「備後国府考」『芸備地方史研究』５・６　1954

豊元国「府中市の沿革」『芸備文化』第３，４合併号　1958

豊元国「備後の国府について」『広島県文化財ニュース』No.27　1965

広島県教育委員会　『備後国府跡－推定地にかかる第１次調査概報－』　1983

広島県立埋蔵文化財センター　『備後国府跡－推定地にかかる第２～７次調査概報－』　1984～1989

財団法人広島県埋蔵文化財調査センター　『備後国府跡－推定地にかかる第８～10 次調査概報－』　1990～1992

府中市埋蔵文化財調査団　『備後国府跡－都市計画街路建設にともなう発掘調査概報－』　1989

府中市教育委員会　『備後国府跡－推定地にかかる 1990・1991 年度調査概報－』　1991・1992

府中市教育委員会　『府中市内遺跡１～17』府中市埋蔵文化財調査報告第６～12・15～19 冊　1995～2013

②伝吉田寺跡：

豊元国「吉田寺跡（現金龍寺）出土の古がわらに就いて（一）（二）」『備後史談』第 19 巻第３号・第８号　1943

広島県教育委員会　『伝吉田寺跡発掘調査概報』　1968

③その他：

小都隆「芦田川水系における縄文時代遺跡の分布について」『考古論集』　1978

谷重豊季「備後国府付近の山陽道」『古代交通研究』第５号　古代交通研究会　1996

大久保遺跡：

広島県府中高等学校地歴部「府中高校所蔵考古資料（県内出土）目録」『地歴』第８号　1980

法全坊遺跡：

広島県府中高等学校地歴部「府中市法全坊遺跡」『地歴』第３号　1975

門田Ａ遺跡・東槙木山古墳群：

財団法人広島県埋蔵文化財調査センター　『門田Ａ遺跡・東槙木山第１・４号古墳』　1999

坊迫遺跡群：

府中市教育委員会　『坊迫遺跡群』府中市埋蔵文化財調査報告第13冊　2001

山ノ神遺跡群・古墳群：

府中市教育委員会　『府中・山ノ神１号古墳発掘調査報告』　1983

財団法人広島県埋蔵文化財調査センター　『山の神遺跡群・池ノ迫遺跡群』　1998

龍王山古墳群・打堀山遺跡群：

府中市教育委員会　『龍王山古墳群Ａ支群・打堀山Ｃ遺跡』府中市埋蔵文化財調査報告第10冊　1999

財団法人広島県埋蔵文化財調査センター　『打堀山遺跡群Ａ・Ｂ地点』　1997

御旅古墳：

脇坂光彦　「府中市中須町大字寺迫字御旅出土の鏡」『芸備』第３集　1975

千原遺跡・古墳：

脇坂光彦，河内秀史「府中市千原古墳の石棺」『芸備』第６集　芸備友の会　1978

府中市『目でみる府中の歴史　千原墳墓群』　1987

寺山遺跡・古墳群：

寺山遺跡発掘調査団『広島県府中市寺山遺跡発掘調査報告書』　1979

助宗古墳：

本山町郷土史会「助宗古墳の調査報告」『もとやま』第七号　本山町郷土史会　1985

日吉中谷古墳：

本山町郷土史会「日吉中谷古墳の調査報告」『もとやま』第十七号　本山町郷土史会　1990

前原遺跡：

府中教育委員会　『前原遺跡』府中市埋蔵文化財調査報告　第24冊　2011

七ツ池周辺遺跡群（常城・青目寺など）・青目寺関連遺跡：

豊元国「備後常城の調査」『奈良時代山城の研究』府高学報　1968

脇坂光彦「備後国府成立の考古学的背景」『芸備』第12集　芸備友の会　1982

広島県立府中高等学校生徒会地歴部『青目寺の調査報告』　1968

高橋孝二「平安後期の本山の様相」『もとやま』第二十一号　本山町郷土史会　1993

土井基司「最近の調査から見た青目寺跡」『もとやま』第二十五号　本山町郷土史会　1997

府中教育委員会　『府中市内遺跡８』府中市埋蔵文化財調査報告　第16冊　2004

本山町郷土史会『もとやま』の各号に青目寺関連の論考・資料紹介が多く掲載されている。

栗柄廃寺：

府中市教育委員会　『府中市内遺跡15』府中市埋蔵文化財調査報告　第23冊　2011

下郷桑原遺跡：

財団法人広島県埋蔵文化財調査センター『下郷桑原遺跡』　1984

溝手遺跡・田中遺跡・二宮神社遺跡：

谷重豊季「芦田郡府川村所在の「古城」について」『芸備』第28集　芸備友の会　1998

第２章　備後国府の研究史

第１節　近世・明治大正期～昭和期の所在地論

備後国府跡の所在については，江戸時代の地誌類のなかに記述が見られる。『藝藩通誌』には「備後国府，古は葦田郡に在，今府中村是なり」とあり，『西備名区』には「古府は栗柄辺と云え共，さだかに其域の跡をわかたざれば詳しからず」，『福山志料』には「府川村を中心に此あたり四五村みな府中の郭内なりし由なり」と記述されている。いずれも，葦田郡府中村・同郡栗柄村・同郡府川村がその比定地として挙げられているが，いずれも具体的な位置を示すものではなかった。

明治大正期でも，『倭名類聚抄』の記載をもとに，地名を主として国府の所在を決める手法であり，備後国府の場合，浜本鶴賓も「蘆品郡国府村大字府川」（現在の府川町）に国府の所在地を求めているが，手法としては同様であった。[1)]

昭和期になり，歴史地理学的手法によって国府の所在をめぐる議論が展開された。

豊元国は，1954年の『芸備地方史研究』において，『倭名類聚抄』の「国府在葦田郡」の記述から，芦品郡国府村（現在の府中市中須・高木・府川町）にその所在を推定した。その根拠として，府川が近世初頭まで「府中市村」という地名であったことや，府川で「土居」の地名が八町程離れた地点でそれぞれ確認できることなどを挙げている。奈良時代の備後国府の位置はよくわからないとしながらも，平安時代の国府は国府村に所在したと論じた。[2)]

一方，高垣敏男は，1953年の『備後国府考』という著書の中で，『倭名類聚抄』の「国府在葦田郡」の記述は，国府の所在地を示すのではなく，この書物が書かれた平安時代の状況を記したと解した。そして，国分寺・小山池廃寺（国分尼寺に比定）が所在し，深安郡湯田村（現在の福山市神辺町湯野）に「方八町」と呼ばれる地名があることから，当初国府は深安郡湯田村に造営され，その後に，芦品郡栗生村（現在の府中市栗柄町）に移動したと推定している。[3)]

また藤岡謙二郎は，1969年の『国府』のなかで，府中平野部に残る正方位の地割の存在から，現在の府中市元町付近をその地として推定した。[4)]

この時期は，地名・地形や地割などに根拠を求める歴史地理学的手法による議論であり，府中市内での本格的な発掘調査による成果は，1982年の広島県教育委員会（以下，「県教委」という。）による調査の着手を待たなければならない。

第２節　広島県教育委員会の調査

1970年代以降，発掘調査を本格化させた県教委は，備後国府跡の所在を確定するため，まず「方八町」という地名のあった，現在の福山市神辺町湯野地区において調査を実施した。しかし，1977年から1981年までの５年間にわたる確認調査において，弥生時代前期の環濠を始めとして，縄文時代から近世に至る多様な遺構が確認されたが，備後国府に関連するような遺構・遺物は確認されなかった。

その後，1980年に府中市文化センター建設に伴って，県教委が試掘調査を実施した。この地点は豊元国による国府推定地内に含まれ，所在地の解明が進むと期待されたが，古代の遺構・遺物は検出されなかった。しかし，工事中に多量の土器や木製品（人形・斎串）が，自然河道と推定される部分から発見された。このときの遺物は，府中市教育委員会（以下，「市教委」という。）に一部保管されている。

1982年には，広谷小学校のプール改築工事に伴って市教委が試掘調査を実施しているが，二次堆積土のなかに古式土師器が混入していただけで遺構は確認されなかった。

こうした状況のなかで，福山市神辺町に次いで府中市において，1982年から1991年まで10次にわたる「備後国府跡推定地にかかる調査」が県教委などによって実施された。10次に及ぶ調査の概要については次の通りである。[6)]

１次調査では，鵜飼町から広谷町で奈良～平安時代の遺物包含層，２次調査では，鵜飼町で弥生～鎌倉時代の遺構・遺物を確認し，特に鵜飼町寺の前では，奈良～平安時代の掘立柱建物跡を検出している。３次調査では，元町明ゼン・ツジ地区で奈良～平安時代の掘立柱建物跡等の遺構と，緑釉陶器・陶硯等の遺物を確認した。４次調査では，元町砂山地区で奈良～平安時代の柱穴や井戸跡，元町ワキ地区で奈良～平安時代の柱穴や溝を検出した。５次調査では，元町片岡地区で柱穴・溝等の遺構，元町新角メン地区で奈良～平安時代の遺物包含層，元町ホリノ河内地区で弥生時代～中世の遺物包含層を確認した。６次調査では，元町砂山地区で平安時代～中世の掘立柱建物跡等の遺構や遺物，元町松原地区で奈良～平安時代の柱穴・溝等の遺構，７次調査では，出口町辻横田地区で古墳時代～中世の柱穴・土坑，出口町辻砂場地区で奈良～平安時代の遺物包含層を確認した。８次調査では，出口町辻高居地区で平安時代の柱穴・溝等の遺構と緑釉陶器などの遺物，９次調査では，高木町で奈良～平安時代の遺物包含層，府川町で中世の柱穴・溝等の遺構を，そして10次調査では，中須町で調査を行ったが，国府跡に直接関係する遺構・遺物は確認できなかった。

これらの調査によって，府中市街地の北側に元町を中心に国府に関連した遺跡が広く存在していたということが確認された。元町の砂川（音無川）東側，特にツジ遺跡周辺については３・４・６次調査で奈良～平安時代の掘立柱建物跡や溝などの遺構が検出されたほか，緑釉陶器・陶硯・青磁・白磁等の遺物が確認され，砂川（音無川）西側にも平安時代～中世の掘立柱建物跡・土器溜まり・瓦溜まり・溝・井戸などの遺構・遺物が確認され，周辺一帯に備後国府に関連する遺跡が存在するとされた。また，ツジ遺跡周辺については，藤岡氏が指摘したように市街地全体に広がる条理地割とは別に正方位にほぼ一致した地割が残る一帯が存在し，背後の丘陵上には総社もあるため国府の中心域に近い部分ではないかと考えられた。ただ，このほかにも，この元町の国府中心域から西に約１ｋｍ離れた出口町辻横田地区や出口町辻砂場地区で奈良～平安時代の遺構・遺物が確認され，出口町辻高居地区では緑釉陶器や墨書土器なども確認され，市街地北西側にも国府関連施設が存在していることが確認された。東側の鵜飼町寺ノ前地区でも奈良～平安時代の遺構・遺物が確認され，正方形の整然と区画された明確な国府域はなく，国府関連施設は周辺地域に広範囲に分散して存在

していたと考えられた。

府中市街地内の遺跡の分布状況がおおまかに把握されるとともに，長らく府中市と福山市神辺町とで議論が交わされた備後国府跡の所在地について，一応の決着を見たこととなった。なお，調査の結果をうけて，府中市街地遺跡群の範囲が設定されることとなった。

註・参考文献

1）浜本鶴賓「備後国府後址考」『尚古』52　1913

2）豊元国「備後国府考」『芸備地方史研究』５・６　1954

3）高垣敏男『備後国府考』 1953

4）藤岡謙二郎『国府』 1969

5）広島県教育委員会『大宮遺跡第１～５次発掘調査概要』 1978～1982

6）広島県教育委員会 『備後国府跡－推定地にかかる第１次調査概報－』 1983

広島県立埋蔵文化財センター 『備後国府跡－推定地にかかる第２～７次調査概報－』 1984～1989

財団法人広島県埋蔵文化財調査センター 『備後国府跡－推定地にかかる第８～10次調査概報－』 1990～1992

第３章　事業及び調査の概要

第１節　事業の経緯と経過

（ａ）事業の経緯

1982年から1991年まで10次にわたる「備後国府跡推定地にかかる調査」（以下，「県教委調査」という。）が県教委などによって実施されたのちに，1990年からは，正方位の地割が残っているとして従来から指摘されていた砂川（音無川）東岸のツジ遺跡周辺においても，市単独事業による備後国府関連遺跡の調査が開始された。1993年からは国庫補助事業「府中市内遺跡」として，備後国府関連遺跡をはじめとする市内所在の重要遺跡の確認調査及び緊急調査が実施されている。その後しばらくは，金龍寺東遺跡の調査を集中的に実施したが，1998年度より再びツジ遺跡において確認調査を開始した。2004年度よりツジ遺跡周辺の都市計画の見直しもあり，国府関連遺跡の実態を把握するための体制が整えられ，さらに集中的に確認調査を推進することにした。この「府中市国府プロジェクト」は，発掘調査により国府中枢域を確認し，住民と共に国府跡の整備・活用の議論をひろげ，発掘調査の成果をもって国指定史跡を目指すと共に，整備・活用の具体化をはかり，国府跡をまちづくりの核としようとするものであった。近年の確認調査によって，ツジ遺跡・元町東遺跡の両遺跡において区画溝が検出され，現在の周辺地割と合わせると一町四方の官衙施設（館または曹司）が推定されている。今後もツジ遺跡周辺については，他地区より細かく対応する必要がある。ツジ遺跡は，これまでの調査状況をあわせて，国府の中心域に近い部分ではないかと考えられているが，遺跡周辺は既に宅地化しており，調査面積の確保が困難であることが多く，十分な成果が得られないため，国庁域の確定には到っていない。このため，2012年より「府中市国府プロジェクト」を見直し，国府政庁発見のための発掘調査を引き続き実施するとともに政庁発見に拘泥せず，ツジ遺跡・元町東遺跡を備後国府関連遺跡として早期の国史跡指定に取り組むこととした。

府中市街地遺跡群内およびその周辺においては，開発に伴う試掘・発掘によって，補助事業調査を補完するような成果が挙がっており，それらをまとめたものが表１である。

（ｂ）調査の経緯と概況

十年間10次にわたる県教委調査が実施され，基礎的な成果が挙げられたことは，既に第２章第２節において触れたとおりである。ここでは，市教委による備後国府関連遺跡における保存目的の確認調査および開発対応の調査の成果について，その主要な調査の概況を記述しておく。

１．ツジ遺跡～元町東遺跡

ツジ遺跡および元町東遺跡は，府中市元町を南北に流れる砂川（音無川）の東側に所在する。明治29（1896）年の地籍図（府中市税務課保存）には，同地区周辺に狭小な小字が非常に多く存在することが認められる。また，同地区周辺と金龍寺東遺跡周辺は，府中市街地全体に見られる条里制水田

と異なり，正方位にほぼ合致した地割が存在することから，この元町地区の一部に備後国府政庁域が造営されたのではないかと従来から指摘されていた。その後の県教委第3・4・6次調査では，奈良・平安時代の掘立柱建物や溝などの遺構が検出されたほか，緑釉陶器・陶硯・青磁・白磁などの遺物が出土し，以後周辺一帯が備後国府に関連する遺跡として注目されていた。

以下，ツジ遺跡および元町東遺跡における主要な調査について調査年度ごとに概要を記述する。

1990年度は，県305Ｔで検出された掘立柱建物（SB305）の規模確認の調査9001Ｔを行った。調査の結果，SB305（＝SB9001）は，東西２間×南北７間以上の長大な南北棟であることが確認された。

1991年度の調査9104Ｔでは，該期の遺構の検出こそなかったが，須恵器・土師器・青磁・白磁などの遺物が出土した。

1999年度の調査9901Ｔは，一辺約0.8ｍの平面形が隅丸方形を呈した大型柱穴列などが確認された。また，包含層からは，多くの緑釉陶器のほか陶硯・越州窯青磁などが出土した。9001Ｔ検出のSB9001以外にも大型建物跡が確認され，さらに官衙遺跡の広がりが想定された。

2000年度の調査0003Ｔは，溝と考えられる落ち込みと多量の古代の須恵器・土師器が出土する包含層が確認された。

2001年度は，遺跡の東・南側への広がりを確認するため，県605Ｔの南東約40ｍの地点に調査区0104Ｔを設定した。県605Ｔでは，奈良・平安時代の溝状遺構やピットが検出され，中でもSD619はほぼ真南北方向であったため，区画溝あるいは道の側溝の可能性が高いと考えられており，さらに周辺での確認調査の必要性は認識していた。0104Ｔでは遺構の検出は無かったが，古代の遺物が多量に出土する包含層が確認され，この時点において，これを元町東遺跡とした。

2002年度は，0202Ｔと0203Ｔの２地点の調査を実施した。0202Ｔは，県301Ｔと同一地点に重複した調査区を設定して内容確認調査を行った。調査の結果，奈良・平安時代の掘立柱塀のほか，古墳時代から飛鳥時代にかけての自然流路が確認された。0203Ｔでは，奈良・平安時代の掘立柱建物（東西棟）が確認された。この建物は，二度の建て替えが行われていることが確認された。

2003年度は，9901Ｔの北側隣接地で遺構の広がりを確認する調査0301Ｔを実施した。調査の結果，６棟の掘立柱建物，井戸，溝など，奈良・平安時代の遺構が確認された。0301Ｔ・9901Ｔからの緑釉陶器の出土点数・出土量は，他の調査地点を圧倒していることが注目された。

2004年度は，0202Ｔなどが実施されている地点で調査0401Ｔを実施した。周辺の調査成果や地形から，国府政庁の存在が想定されたエリアであったが，政庁に関連する遺構は検出されなかった。

2005年度の調査0501Ｔと0502Ｔでは，奈良・平安時代の複数の掘立柱建物が重複して検出された。特に0501Ｔでは，ガラス小玉54個が納められた奈良三彩蓋付小壺や「厨」墨書土器が出土し，一帯が重要なエリアである可能性を再認識させられた。また，元町東遺跡において実施された調査0506Ｔでは，奈良時代の東西方向の区画溝ＳＤ３が確認され，周辺に一定の区画が存在していることが確認された。

2006年度は，9001Ｔ調査と同地点の未調査部分の確認調査0602Ｔを行い，0501Ｔ調査成果と併

せてこのエリアの建物群の規模や配置関係について多くの成果が得られた。部分的な検出ではあったたが，調査区北側で検出された廂を持つＳＢ６は柱間・柱穴の規模から官衙施設の中心的建物である「主殿」の可能性が高いと想定された。また元町東遺跡において，県605Ｔや0506Ｔで確認された区画溝の続きと周辺の詳細な状況を確認するための調査0601Ｔを実施した。調査の結果，想定されていた東西方向の区画溝ＳＤ７の続きとともに，調査区南端で直交する南北方向の区画溝ＳＤ６(＝県605Ｔ：SD619)とさらに西側に並行する区画溝ＳＤ４・５が確認された。0506Ｔの調査成果と併せて，区画溝は東西方向で約45ｍ以上，南北方向で約15ｍ以上の規模となった。また，区画溝ＳＤ６・７の上位には，平安時代中頃から終わりにかけての土器が大量に出土する“土器溜り”が確認された。区画に関わる遺構が確認されたことで，ツジ遺跡を中心とする一帯の官衙遺跡縁辺部の状況や一定の官衙ブロックを想定するうえで，以後の調査の基点となる重要な成果が得られた。

2007年度は，0203Ｔの北側約50ｍの地点で確認調査0701Ｔを実施した。調査地点は，0203Ｔ・0506Ｔで確認されている官衙施設の北側部分にあたり，関連する遺構の広がりないし北辺区画施設等が想定されていたが，そういった遺構は確認することはできなかった。一方，個人住宅建設時の浄化槽設置に伴い実施された調査0708Ｔでは，狭小な調査区ながら大溝の埋土とも考えられる土層が確認されており，状況から官衙施設の区画に関係する溝の一部である可能性が極めて高いと推測された。元町東遺跡では，前年の0601Ｔなどと同じ地点で0702Ｔ・0703Ｔを設定した。調査の結果，0702Ｔでは0601Ｔからの続きとして，南北方向の区画溝ＳＤ６(＝県605Ｔ：SD619)とさらに西側に並行する区画溝ＳＤ４・５が確認された。ＳＤ４・５については，現代の撹乱によって破壊を受けているため判然としないが，調査区内で西側に90°屈曲しているようであった。0703Ｔは同地点でも東側にあたり，0506Ｔや0104Ｔの南側に設定した。0506Ｔで確認された区画溝ＳＤ３より南側にあたるが，調査の結果，0104Ｔ同様に遺構の検出は無かった。

2008年度は，宅地造成工事に伴う試掘調査0802ａ～ｆＴを実施した。狭小な調査区ではあったが，古代の遺物包含層や遺構面が確認された。

2009年度は，公民館が移転してできたその跡地において確認調査0903Ｔを実施した。0903Ｔ地点は，政庁の存在が想定され結果的に空振りに終わった0401Ｔ地点の南側隣接地にあたる。0903Ｔでは，0502Ｔの調査成果と併せると，奈良・平安時代の掘立柱建物が６棟分(ＳＢ１～６)検出された。また，調査区北側では東西方向の区画溝(ＳＤ４・５)が確認された。この溝を北辺として位置づけ，さらに元町東遺跡(0506Ｔ・0601Ｔ・0702Ｔ)で確認された区画溝と現在の周辺地域の地割りを組み合わせて，東西約110ｍ，南北約120ｍの官衙区画(「推定区画」)がはじめて想定可能となった。

2010年度は，9802Ｔや0903Ｔと同地点において，未調査部分の確認調査1001Ｔを実施した。調査の結果，奈良・平安時代の掘立柱建物が３棟分(ＳＢ７～９)検出された。これにより，同地点での確認調査において，概ね３時期９棟分の掘立柱建物が確認され，北辺区画溝(ＳＤ４・５)より南側に遺構が密に展開していることが明らかになった。これとは別に，確認調査1002Ｔを実施下地点は，県302Ｔ・303Ｔが実施された地点であり，0401Ｔ調査地点の西側に隣接している畑であった。調

査地点は,「推定区画」外の北側にあたり，区画外の遺跡の広がりの確認を目的に実施した。調査の結果，奈良から平安時代前半の掘立柱建物・掘立柱塀，平安時代後半から末頃の井戸が検出された。古代の遺物包含層からの出土遺物として，印面に「賀・友・私・印」の四文字が陽刻された銅製印章が出土した。「推定区画」外北側においても官衙施設がさらに広がっていることが確認された。

2011年度は，確認調査1102Ｔを「推定区画」のほぼ中心に位置している地点において実施した。調査の結果，掘立柱建物が3棟分(ＳＢ１～３)，井戸(ＳＥ１・２)などが検出された。

2012・2013年度は，確認調査1102Ｔを「推定区画」の中央西寄りの地点において実施した。同地点では，これまでに県306Ｔや県402Ｔが実施されており，その未調査部分の確認調査1201Ｔ・1202Ｔ・1301Ｔを実施した。調査の結果，掘立柱建物が7棟分，区画溝，井戸などが検出された。2011年度から2013年度にかけて,「推定区画」中心部分において調査を重ねてきた。その結果，既往の調査成果と併せ見たときに緑釉陶器や灰釉陶器の出土傾向がこの「推定区画」中心部分では極めて高いことが明らかとなった。

ツジ遺跡および元町東遺跡一帯は，遺跡周辺は既に宅地化しており，調査面積の確保が困難であることが多く，効率的に調査計画を実施することの困難さを宿命的に有している。しかしながら，近年の確認調査の蓄積によって，ツジ遺跡・元町東遺跡の両遺跡において区画溝が検出され，現在の周辺地割と合わせると一町四方の官衙施設「推定区画」が復元されている。この「推定区画」の内外では，ほぼ正方位の掘立柱建物が数棟集中して検出され，出土遺物としても多数の緑釉陶器のほか，ガラス小玉が納められた奈良三彩蓋付小壺，墨書土器，腰帯具，陶硯，越州窯青磁など特徴的な遺物が出土している。政庁部分が明らかになっていない状況下での推測で早計の感をぬぐえないが，国府中心域つまりは国庁に近接した国府関連施設(館ないし曹司)と考えられている。

２．伝吉田寺跡～金龍寺東遺跡

伝吉田寺跡は，1967年の県教委と広島大学によって調査が実施され，塔および講堂跡と推定される建物基壇が検出されている。法起寺式の伽藍配置が推定されているが，その外郭線は不明である。

金龍寺東遺跡では，1993年度調査(9301～06Ｔ)において古代の建物基壇(ＳＢＡ)が確認されたことを契機に，周辺部の内容・範囲確認調査が実施されることとなった。9301～06Ｔの西側で1994年度に実施された9401Ｔでは，建物基壇(ＳＢＢ)が検出され，南側で実施した9402・03Ｔでは礎石の抜き取り跡が見つかり，さらに別の礎石建物(ＳＢＣ)が存在することが明らかになった。

次いで1995年度には，ＳＢＣが確認された地点の未調査部分を調査したところ，県下最大の規模の柱穴をもつ掘立柱建物(ＳＢＤ)が確認された(9502Ｔ)。

その後1998年度の9801Ｔや1999年度に実施された9902Ｔにおいて，ＳＢＤは桁行4間×梁行2間の東西棟で，ＳＢＤの後に桁行8間以上×梁行2間のＳＢＥが建てられ，さらに柱穴間に溝を持つＳＢＦがＳＢＤと並行して建てられていることなどが確認された。その他にも，遺構集中域の南端を区画溝と推定される真東西方向の溝(9702Ｔ)や，遺跡西側に隣接する伝吉田寺跡との境界が

推定される地点において井戸と南北方向の溝が確認された（9903 T）。さらに 9903 T の南側では，2000 年度実施の 0001 T 調査において，中島を持つ苑池遺構を確認した。

金龍寺東遺跡の北側背後には，現況の比高差で約 40 m の崖線が迫っており，遺跡の限界線を想定は容易だが，南側あるいは西側については明確になっていない。9702 T の東西方向の溝よりも南側では遺構・遺物ともに希薄になることから，一定程度は想定されていた。2001 年度に実施した 0101 ～ 03 T では，南側の範囲確認が目的に実施したが，後世の撹乱によって遺構が削平を受けているため良好な成果は得られなかったが，概ね 9702 T の調査成果と同じ状況と考えられる。

伝吉田寺跡の外郭推定線と金龍寺東遺跡は隣接するが，現状ではその区画施設の確認には至っていない。金龍寺東遺跡の一部は，遺跡の保存と活用を目的として既に公有地化されている。

3．ドウジョウ遺跡

ドウジョウ遺跡は，金龍寺東遺跡との位置関係としては，東側にあたる。遺跡周辺での調査状況としては，本遺跡の北東側に当たる北方山麓から延びた日当たりの良好な南向きの低丘陵において，県教委による第 5 次調査（県 501 ～ 503 T ・505 T）が実施されている。奈良・平安時代の柱穴やピットといった遺構や緑釉陶器・青磁・白磁などの遺物が確認された（門田南遺跡）。

2002 年度から 2007 年度にかけて，旧府中市立第二中学校周辺において，府中学園新設に伴う試掘調査・発掘調査（02 ドウジョウ二中試掘など）と市道改良に伴う試掘調査・発掘調査（04 ～ 06 元町など）が実施され，西側の金龍寺東遺跡と東側の砂川（音無川）に挟まれた地域に縄文時代から中世の遺跡が存在していることが判明し，ドウジョウ遺跡とした。特に，02 ドウジョウ二中試掘 2 T からは古代の丹塗土師器が出土し，さらには府中学園体育館建設に伴う発掘調査である統合学校ドウジョウ調査では，調査区北西隅において古代の東西方向の大溝と柱穴列が確認されており，国府関連施設につながる調査成果として注目されていた。

2008 年度に 02ドウジョウ二中試掘 2 Tの北側地点で，遺跡の範囲内容確認を目的として 0803 Tを実施した。調査の結果，奈良時代から平安時代前半の遺構として，区画溝（SD12 ～ 15）・掘立柱塀（SA 1）・廃棄土坑（SX 1）などが検出された。特に東西方向の区画溝である SD12・13と統合学校ドウジョウ調査で検出された東西方向の大溝の存在などから，国府関連の区画が一帯に想定されている。

2009 年度に確認調査 0901 T を実施した地点は，0803 T の東側約 120 m の地点にあたり，2004 年度から 2006 年度にかけて実施された市道府中駅元町線建設に伴う調査（04 ～ 06 ドウジョウ）地点の西ないし北西側にあたる。04 ～ 06 ドウジョウの調査では，弥生時代の遺構・遺物は多く出土したが，奈良時代から平安時代の遺構は希薄であった。0901 T 調査区においても，遺構の検出状況は同様に希薄であった。しかし，出土遺物としては，11 世紀後半から 12 世紀にかけての貿易陶磁器の出土量が他の遺跡や調査地点と比較して多いことが注目される。

4．砂山遺跡

砂山遺跡は，砂川（音無川）の西側に所在している。県教委第 4 次（401・403・404 T）と第 6 次調

査(601 ～ 604 T)が行われ，平安時代末～鎌倉時代の掘立柱建物跡・溝・井戸などの遺構が確認され，主な遺物として木簡・緑釉陶器・円面硯・青磁・白磁などが出土している。

1988 年度には同地点において，都市計画街路建設にともなう 88 砂山街路調査が市教委によって実施され，掘立柱建物 3 棟と井戸 3 基が見つかった。掘立柱建物 3 棟のうち 2 棟は総柱構造で倉庫と考えられている。また，井戸(SE 3)の井戸枠内からは数点の貿易陶磁器とともに，多量の土師器が出土している。以上のように砂山遺跡では，平安末～鎌倉時代にかけての備後国府に関連する遺跡の存在が明らかになっている。砂山遺跡についてもドウジョウ遺跡と同様に，国府関連遺跡のアウトラインについては明確になっていない。

5．大マヘ遺跡

大マヘ遺跡は，砂川(音無川)の東側に所在し，ツジ遺跡および元町東遺跡との位置関係としては，南側にあたる。当初元町東遺跡や 2002 年度実施の確認調査 0201 T などの調査状況から，付近は遺構の希薄な空閑地と推定されていた。

しかし，2004 年度の確認調査 0402 T において，奈良～平安時代の区画を意図したと考えられる南北溝が検出され，また上層の包含層からは緑釉陶器が多く出土することから，一帯に国府関連遺跡が広がっていると推定されている。

2005 年度には，確認調査 0503 T と個人住宅建設に伴う調査 0504 T が実施された。狭小な調査区内からは，大型の建物跡など国府関連の遺構は検出されなかった。しかし一方で，砂川(音無川)の極めて近くの調査地点であるにも関わらず，古代の層位において小河川の洪水等の痕跡は認められず，比較的安定した基盤層が存在していることが確認された。

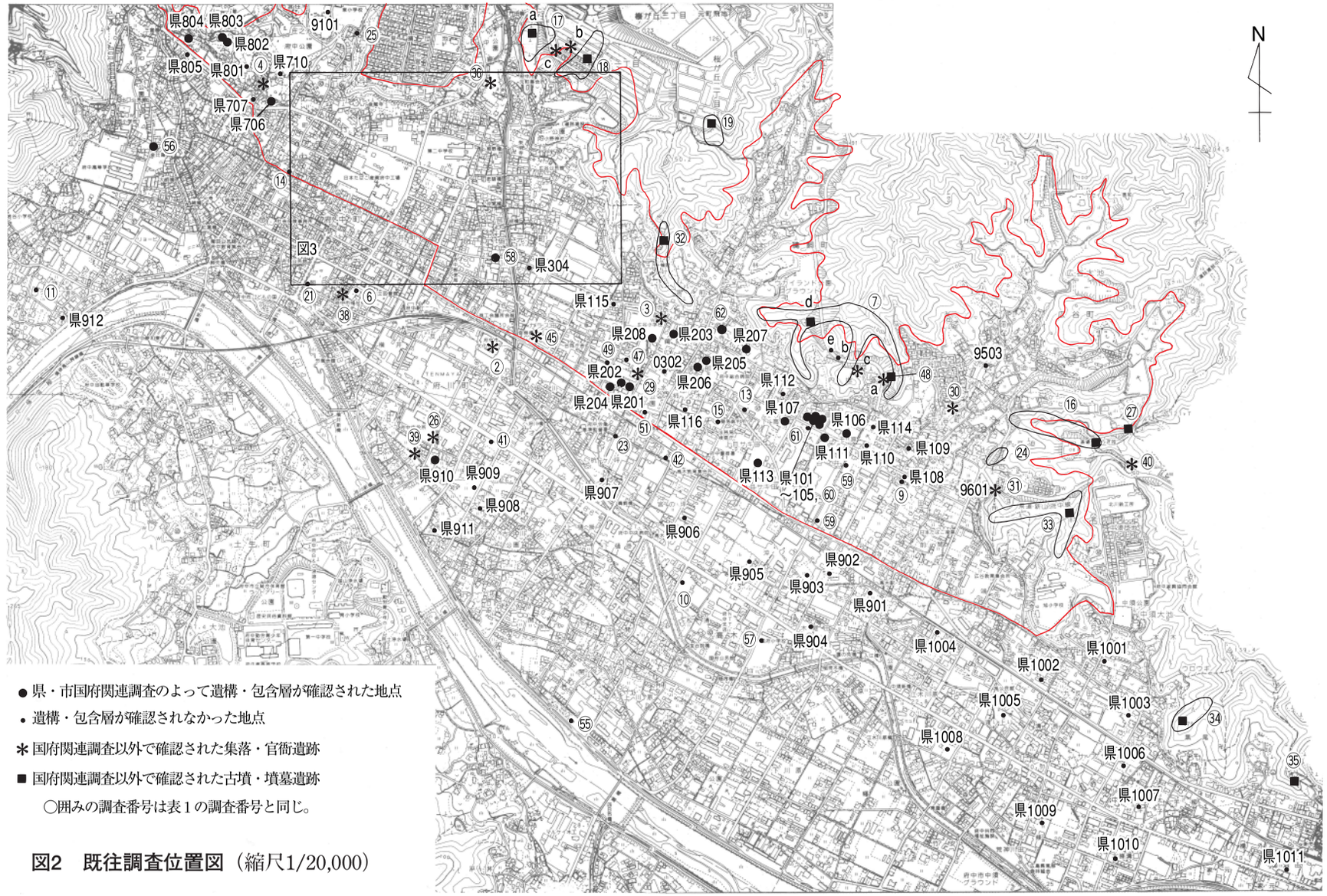
2007 年度に実施した確認調査 0707 T は，0503 T の北側でさらに砂川左岸に隣接する場所で実施した。備後国府に関連するような明瞭な遺構は確認されなかったが，現況の砂川川底よりも深い砂礫層の中にも古代の土器が含まれていることが確認されており，該期の土地利用状況や環境を考える上で，重要な成果が得られた。

0402 T の調査成果を基点に，遺跡のアウトラインの確定が今後期待される。

6．ホリノ河内遺跡

ホリノ河内遺跡は，砂川(音無川)の東側に所在し，ツジ遺跡との位置関係としては，北西側にあたる。1986 年に県 506 T が実施され，中世の柱穴・溝を確認し，白磁や古銭などが出土している。

2001 年度と 2003 年度において，市道土生元町線道路改良工事に伴い発掘調査(01・03 ホリノ)が実施され，弥生時代から古墳時代にかけての集落跡，平安時代から中世にかけての集落跡を確認し，弥生土器・緑釉陶器・白磁・越州窯磁器などが出土している。中でも白磁・青磁などの貿易陶磁器の出土量は極めて多く，注目される。



● 県・市国府関連調査のよって遺構・包含層が確認された地点

• 遺構・包含層が確認されなかった地点

＊ 国府関連調査以外で確認された集落・官衙遺跡

■ 国府関連調査以外で確認された古墳・墳墓遺跡

○囲みの調査番号は表１の調査番号と同じ。

図2　既往調査位置図（縮尺1/20,000）

表１　府中市街地遺跡群関連調査・遺跡一覧

（ａ）重要遺跡確認調査

調査年度	町・小字名		調査名称		主な遺構	主な遺物	調査主体	文献
1982	鵜飼	町田	県101～104	町田遺跡	包含層(奈良～平安)		県教委	1
			県105		溝状遺構(奈良～平安?)			
		コモ原	県106, 111		包含層(奈良～平安)			
		下高田	県107		包含層(奈良～平安)			
			県112		なし	なし		
		上サキ田	県113		なし	なし		
		寺の下西	県115		なし	なし		
		柿の木	県116		包含層(中世)			
	広谷	西田・砂田	県108～110, 114		包含層(奈良～平安)			
1983	鵜飼	カラス田	県201, 202, 204		包含層(縄文～平安)	縄文土器	県埋文	2
		服部田	県205, 206	服部田遺跡	土坑・溝(平安～中世), ピット(弥生)	灰釉陶器, 鼓形器台		
		寺の前	県207	寺の前遺跡	掘立柱建物(奈良～平安), 溝状遺構(弥生後期)	円面硯		
		広畑	県203	広畑遺跡	古墓・溝(平安～中世)			
		寺の下西	県208	寺の下西遺跡(広谷小学校校庭遺跡)	溝(弥生, 古墳, 奈良～平安)			
1984	元町	明ゼン・マエ	県301～303	ツジ遺跡	掘立柱建物(奈良～平安), 住居(古墳初頭)	緑釉陶器, 青・白磁, 転用硯	県埋文	3
		ツジ	県305, 306		掘立柱建物(奈良～平安)	緑釉陶器, 青・白磁, 円面硯, 風字硯		
		土井ノハナ	県304		なし			
1985	元町	砂山	県401, 403, 404	砂山遺跡	柱穴・溝・井戸(奈良～平安)	木簡, 緑釉陶器, 青・白磁, 円面硯	県埋文	4
		ワキ	県402	ツジ遺跡	柱穴・溝(平安～中世)	緑釉陶器, 青・白磁, 弥生土器		
1986	元町	片岡	県501～503, 505	門田池南遺跡(元町遺跡)	柱穴(奈良～平安)	緑釉陶器	県埋文	5
		新角メン	県504		包含層(奈良～平安)			
		ホリノ河内	県506	ホリノ河内遺跡	ピット(中世), 包含層(弥生, 中世)			
1987	元町	砂山	県601～604	砂山遺跡	掘立柱建物・溝・柵状遺構・井戸(平安～中世)	緑釉陶器, 白磁, 古式土師器	県埋文	6
		松原	県605	ツジ遺跡	土坑・溝・ピット(古墳～平安)	灰釉・緑釉陶器		
1988	出口	辻横田	県701～705	辻横田遺跡	土坑(平安), 柱穴(古墳～平安)	青・白磁	県埋文	7
		辻砂場	県706		包含層(奈良～平安)	緑釉陶器		
		辻高居	県707		なし			
		池下	県708, 709		なし			
		嵜羽中	県710		なし			
1989	出口	辻高居	県801		なし		(財)埋文	8
			県802, 803	辻高居東遺跡	柱穴・溝状遺構(平安)			
			県804	辻高居西遺跡	柱穴・溝(平安)	緑釉陶器, 墨書土器, 白磁, 風字硯, 銅椀		
			県805		なし			
1990	高木	本堀田・沖・宮ヶ坪・杭ヶ坪		県901～907	なし		(財)埋文	9
	府川	大田・藤ノ木・中須賀		県908, 909, 911	なし			
		溝手	県910	溝手遺跡	土坑・溝・ピット(中世)	白磁, 古銭(中世)		
	目崎	加一	県912		なし			
	元町	ツジ	9001	ツジ遺跡	大型掘立柱建物(奈良～平安)	漆塗須恵器, 緑釉陶器, 青・白磁, 円面硯, 転用硯	市教委	14
1991	中須	池下・五反田・九反田・国府・渡り上り・カセギ・皇太子・細々・北條・北條溝口・御酒田		県1001～1011	なし	県1001・1011から遺物出土	(財)埋文	10
	府中	羽中・池下	9101, 9102		なし	縄文土器(9102)	市教委	15
	元町	石井	9103	金龍寺東遺跡	基壇(奈良?～平安)	緑釉陶器, 青・白磁, 鳥陰刻磚状土製品		
		ドンケイ	9104	ツジ遺跡	包含層(奈良～平安)	円面硯		

調査年度	地区		調査名称		主な遺構	主な遺物	調査主体	文献
1993	元町	石井	9301～06	金龍寺東遺跡	基壇を伴う礎石建物(平安)	青・白磁,墨書土器,鳥陰刻鬼瓦・磚状土製品,転用硯	市教委	16
1994	元町	東シ	9401	金龍寺東遺跡	基壇建物B(平安)	青・白磁	市教委	17
		一丁田	9402,9403		礎石抜き取り跡・掘り方(奈良?～平安)	青・白磁,転用硯		
	府中	下才田	9404	下才田遺跡	包含層			
1995	元町	一丁田	9501,9502	金龍寺東遺跡	大型掘立柱建物D(奈良),礎石抜き取り跡・掘り方(奈良?～平安)	須恵器長頸壺(漆液容器)	市教委	18
	広谷	大迫谷	9503		なし			
1996	広谷	平佐	9601	平佐遺跡	包含層(弥生～古代)		市教委	19
1997	府中	下才田	9701	下才田遺跡	柱穴・溝(中世)	弥生土器,古式須恵器	市教委	
	元町	フルカワ・仁王堂	9702	金龍寺東遺跡	大溝(奈良～平安)	須恵器托状椀,風字硯		
		石井	9703		包含層	緑釉陶器,越州窯磁器,白磁,永楽通宝		
1998	元町	一丁田	9801	金龍寺東遺跡	大型掘立柱建物(奈良),集石遺構	赤塗土師器,緑釉陶器,墨書土器?,白磁	市教委	20
		マエ	9802	ツジ遺跡	土坑(古代?),柱穴(中世?)	弥生土器(前期),緑釉陶器		
1999	元町	松原	9901	ツジ遺跡	大型掘立柱建物(奈良),掘立柱建物(平安)	緑釉陶器,青・白磁,円面硯,風字硯,猿面硯	市教委	21
		一丁田	9902	金龍寺東遺跡	板壁付掘立柱建物(奈良),掘立柱建物・溝・集石遺構(平安)	赤塗土師器,白磁,磚状土製品		
			9903		井戸・溝(奈良～平安?)	瓦(多量)		
2000	元町	一丁田	0001	金龍寺東遺跡	苑池遺構(奈良～平安?)	唐三彩片,緑釉陶器,墨書土器,瓦多量	市教委	22
		砂山	0002	砂山遺跡	大溝?			
		マエ	0003	ツジ遺跡	溝?	緑釉陶器		
2001	元町	一丁田	0101～03	金龍寺東遺跡	落ち込み(平安?)	縄文土器	市教委	23
		松原	0104	元町東遺跡	包含層	土師器,須恵器		
2002	元町	東シ	0201		なし	灰釉陶器	市教委	
		マエ	0202	ツジ遺跡	掘立柱塀(平安),自然流路(古墳?)	黒色ミニチュア土器,緑釉陶器,白磁		
		カワラケ	0203		大型掘立柱建物・溝(奈良～平安)	弥生土器(絵画土器),緑釉陶器,白磁		
	本山		02青目寺	青目寺観音堂遺跡	なし	瓦		
2003	元町	松原	0301	ツジ遺跡	竪穴住居・掘立柱建物・溝・井戸(奈良～平安),自然流路	山陰型甑形土器,緑釉陶器,墨書土器,円面硯,風字硯	市教委	24
	鵜飼		0302	清水遺跡	なし	須恵器,瓦		
	府中		0303	伝吉田寺跡	土坑,溝,ピット	弥生土器,土師器,須恵器,瓦		
2004	元町	マエ	0401	ツジ遺跡	掘立柱建物・溝(奈良～平安),鋳造遺構,自然流路	緑釉陶器,円面硯,風字硯,石帯,刻書土器,鋳型	市教委	25
		中間	0402	大マヘ遺跡	土坑,溝,ピット	緑釉陶器,銅板		
2005	元町		0501	ツジ遺跡	掘立柱建物・落ち込み(奈良～平安)	奈良三彩小壺(ガラス小玉入),鉈尾,緑釉陶器,墨書土器,円面硯,風字硯	市教委	26
			0502		掘立柱建物(奈良～平安)	緑釉陶器,円面硯,風字硯		
		旧ルヤシキ	0503,0504	大マヘ遺跡	土坑,ピット	土師器,須恵器		
		カワラケ	0505	ツジ遺跡	ピット	土師器,須恵器		
		松原	0506	元町東遺跡	区画溝(奈良～平安),井戸(中世)	土師器,須恵器,緑釉陶器,丸鞆,円面硯,二面硯,獣脚		
2006	元町	松原	0601	元町東遺跡	掘立柱建物・区画溝・土器溜り(奈良～平安),井戸(中世)	土師器,須恵器,緑釉陶器,巡方	市教委	27
		ツジ	0602	ツジ遺跡	掘立柱建物・溝(奈良～平安)	土師器,須恵器,緑釉陶器		
		カワラケ	0603		なし			

調査年度	町・小字名		調査名称		主な遺構	主な遺物	調査主体	文献
2007	元町	ドンケイ	0701	ツジ遺跡	溝	土師器, 須恵器	市教委	28
		松原	0702, 0703	元町東遺跡	掘立柱建物・区画溝・土器溜り(奈良～平安)	土師器, 須恵器, 緑釉陶器		
		東シ	0704	大マヘ遺跡	土坑, ピット	土師器, 須恵器		
		中間	0705		ピット	土師器, 須恵器		
		東シ	0706		井戸, ピット	なし		
		土手の根	0707		溝, ピット	土師器, 須恵器, 瓦		
		寺ノ前	0708	ツジ遺跡	土坑, ピット	土師器, 須恵器		
		ホリノ河内	0709	ホリノ河内遺跡	なし	土師器, 須恵器		
2008	元町	ツジ	0801	ツジ遺跡	溝, ピット	なし	市教委	29
		松原	0802		溝？	なし		
		一丁田	0803	ドウジョウ遺跡	区画溝・柱穴列(奈良～平安)	土師器, 須恵器		
2009	元町	コウノキウ・ドウジョウ	0901	ドウジョウ遺跡	溝, ピット	弥生土器, 土師器, 須恵器	市教委	30
		松原	0902	ツジ遺跡	ピット	土師器, 須恵器		
		マヘ	0903		掘立柱建物・区画溝・掘立柱塀(奈良～平安)	土師器, 須恵器, 墨書土器, 緑釉陶器, 青磁, 白磁, 瓦, 銅鉾		
		松原	0904		大溝	土師器, 須恵器		
2010	元町	マエ	1001	ツジ遺跡	掘立柱建物・区画溝	緑釉陶器, 蛇尾	市教委	31
		明セン	1002		掘立柱建物・掘立柱塀(奈良～平安), 井戸(平安～中世)	土師器, 須恵器, 銅印		
		松原	1003		溝	土師器, 須恵器		
		松原	1004		溝	土師器, 須恵器		
2011	元町		1101	ホリノ河内遺跡	貯蔵穴, 自然流路(弥生～古墳)	土師器, 須恵器	市教委	32
		スミ田	1102	ツジ遺跡	掘立柱建物・掘立柱塀・溝・井戸(奈良～平安末)	土師器, 須恵器, 緑釉陶器, 灰釉陶器, 白磁, 円面硯, 方形硯, 曲物		
			1103		ピット	土師器, 須恵器		
		松原	1104		なし	土師器, 須恵器		
			1105		土坑	土師器, 須恵器		
2012	元町	ワキ	1201	ツジ遺跡	掘立柱建物・掘立柱塀(奈良～平安初), 掘立柱建物・土坑(平安前～末)	土師器, 須恵器, 緑釉陶器	市教委	―
			1202		柱穴, ピット	土師器, 須恵器, 緑釉陶器		
2013	元町	ワキ	1301	ツジ遺跡	溝(奈良～平安前), 小柱穴(平安前～鎌倉), 井戸・土坑(平安末～鎌倉)	土師器, 須恵器, 瓦, 緑釉陶器, 白磁	市教委	―

（b）開発事業に伴う発掘調査・試掘確認調査

番号	種類	調査名称		地区		調査年度	主な遺構	主な遺物	調査主体	文献
①	発	伝吉田寺跡	緊急確認	元町	東シ	1967	塔・講堂(飛鳥～平安)		県教委	11
	発		堤改修		金龍寺	1994	石組み遺構			18
②	試	鳥居遺跡	府中市文化センター建設	府川	鳥居	1980	遺構未確認		県教委	1
	工事						大溝?	古式土師器, 墨書土器, 人形	―	12
③	試	寺の下西遺跡	広谷小学校プール建替	鵜飼	寺の下西	1982	包含層	古式土師器	市教委	1
	試		中央保育所建設			2007	流路(古代)	土師器, 須恵器		―
④	発	出口新町遺跡	宅地造成	出口	嵜羽中	1988	集落(平安)	須恵器(漆液容器)	市教委	―
⑤	発	砂山遺跡	都市計画道路建設	元町	砂山	1988	掘立柱建物, 井戸(平安)	青・白・青白磁	調査団	13
⑥	試	図書館建設		府中	横井	1990	遺構なし		市教委	―
⑦	試	市道下開上塚原線道路改良		鵜飼	清財など	1994	遺構なし		市教委	―
	発	打堀山Ａ遺跡			打堀山など	1995	土壙墓(弥生後期), 古墳(割竹形木棺)1基		(財)埋文	33
		打堀山Ｂ遺跡					古墳(横穴式石室)2基(1基は1墳2室), 土壙墓(平安)	鉄斧		
		打堀山Ｃ遺跡			清財など		集落(弥生～平安)		市教委	34
		龍王山古墳群（Ａ支群）			龍王山など		古墳(石棺, 石蓋土壙)4基	ガラス小玉, 人骨		

番号	種類	調査名称		地区		調査年度	主な遺構	主な遺物	調査主体	文献
⑧	発	金龍寺東遺跡	下水道	元町	石井	1995	基壇建物Ａ(平安)		市教委	18
⑨	試	宅地造成		広谷	丁の坪	1995	遺構なし		市教委	－
⑩	試	ユーホー建設 1990		高木	松清	1995	遺構なし		市教委	－
⑪	試	クルトピア岩谷建設		目崎	加一	1995	遺構なし		市教委	－
⑫	発	六地蔵遺跡	防火水槽	元町	六地蔵	1995	柱穴(室町)		市教委	19
⑬	試	県警宿舎建設		鵜飼	上高田	1995	遺構なし		市教委	－
⑭	立	防火水槽建設		府中	下辻	1995	遺構なし		市教委	－
⑮	試	地方裁判所建設		鵜飼	堂の下	1996	遺構なし		市教委	－
⑯	発	伊豆迫山遺跡 (伊豆迫山南遺跡)	斎場建設 林道建設	広谷	伊豆迫山など	1996	土坑墓(弥生後期～古墳), 土坑墓(平安～鎌倉)	白磁(合子), 鉄刀, 鉄鏃, 湖州鏡, 崇寧重宝, ヒスイ勾玉, ガラス小玉, 鋏	市教委	－
			市道本掘田伊豆谷線道路改良			1999～2000	集落(弥生・古墳), 土坑墓(弥生～古墳)	弥生土器, 土師器(暗文土器), 分銅形土製品	市教委	－
			環境防災林整備事業			2000	土坑墓(弥生など)	弥生土器	市教委	－
⑰	発	坊迫Ａ遺跡 (元町古墳群)	元町地区区画整備事業	元町 本山	坊迫など	1997～98	古墳(粘土槨, 石棺)2基, 土坑墓(弥生後期～古墳)	古式土師器, 摘鎌, 鉈(ヤリガンナ), 人骨	市教委	35
		坊迫Ｂ遺跡		元町	坊迫など	1996～97	包含層(中世)			
		坊迫Ｃ遺跡			坊迫		礎石建物(古代～中世), 古墓(中世), 土坑墓(平安)	須恵器(蔵骨器), 鬼瓦, 古銭(北宋)		
						1998	掘立柱建物(中世)			
						1999	礎石建物(古代～中世)			
⑱	発	山ノ神第１号古墳	土砂採取	元町	山ノ神, 池の迫など	1981	古墳(石棺3)1基, 土坑墓(弥生後期)	小型仿製鏡, ガラス小玉, 人骨	市教委	36
		山ノ神・池の迫遺跡群	元町地区区画整備事業			1996	古墳(石棺)3基, 土坑墓(弥生後期)	小型仿製鏡, ガラス小玉, 人骨, 縄文土器	(財)埋文	37
⑲	発	東槇木山第1・4号古墳	元町地区区画整備事業	鵜飼	東槇木山など	1997	古墳(横穴式石室)2基	鐶座金具	(財)埋文	38
⑳	発	門田Ａ遺跡		本山	門田など		石棺, 土坑墓(弥生後期～末)			
㊸	試	市道朝日上通線道路改良		府中	横井	1997	遺構なし		市教委	－
㊸	試	市道元町21号線道路改良		元町	十二倉東	1997	遺構なし		市教委	－
㊸	試	宅地造成		高木	杭ヶ坪	1997	遺構なし		市教委	－
㊸	発	平佐山遺跡	市道本掘田伊豆谷線道路改良	広谷	平佐山など	1997	集落(弥生), 土坑墓(古代～中世)	弥生土器	調査団	－
						1998	貯蔵穴(弥生)	弥生土器, 古銭(近世)多量	市教委	－
㊸	試	市道下開上塚原線道路改良		府中	羽中	1998	遺構なし(周辺に中世遺構の可能性)		市教委	－
㊸	試	田中遺跡	市役所駐車場整備	府川	田中	1998	柱穴(古代～中世)		市教委	－
㊸	試	木曽丸遺跡	林道建設	広谷	城山	1998			市教委	－
	発					2000	木棺墓, 堀切(古代～中世)	和鏡, 鋏(平安)		－
㊸	試	ホリノ河内遺跡	市道土生元町線道路改良	元町	ホリノ河内	2001	集落(弥生・古墳・平安～鎌倉), 大溝(平安)	弥生土器, 緑釉陶器, 白磁, 越州窯磁器	市教委	－
	試 発	ドウジョウ遺跡			ニゴ	2003	流路(縄文)	縄文土器(突帯文土器)		
						2004	流路(縄文), 集落(平安～鎌倉)	縄文土器, 弥生土器, 土師器, 須恵器, 白磁, 瓦		
㊸	発	別所遺跡	林道建設	新市町別所		1992	集落(弥生～平安)		町教委	－
㊸	試	府中2号汚水線工事		府川	土井	2001	遺構なし		市教委	－
㊸	試	高木府川21号線道路改良		鵜飼・柿ノ木高木		2001	遺構なし		市教委	－
㊸	試	ドウジョウ遺跡	第二中学校校舎新築事業	元町	コウノキウなど	2002	柱穴(古代～中世)	土師器(丹塗), 白磁	市教委	－

番号	種類	調査名称		地区		調査年度	主な遺構	主な遺物	調査主体	文献
⑫	試 発	ドウジョウ遺跡	横井二中線道路改良	元町	大畑ヶ・アリゴ畑	2002	溝(古代)	緑釉陶器, 青・白磁, 瓦, 弥生土器	市教委	―
⑫	試	ドウジョウ遺跡	街路府中駅元町線	元町	コウノキウなど	2004	流路(古代), 溝(弥生)	土師器, 須恵器, 青・白磁, 瓦, 弥生土器	市教委	―
	発					2005	溝, 土坑(弥生)	弥生土器		
						2006	住居(弥生), 掘立柱建物(中世)	弥生土器		
⑫	試	カラス田遺跡	宅地造成	元町	カラス田	2004	ピット	土師器, 須恵器, 緑釉陶器	市教委	―
⑫	試	砂原遺跡	統合小・中学校建設事業	元町	砂原など	2004	柱穴(古代)	土師器, 泥塔	市教委	―
	発					2005	流路, 溜水池(縄文), 掘立柱建物(室町)	縄文土器, 土師器, 須恵器, 備前焼		
		ドウジョウ遺跡			大畑ヶなど	2006	掘立柱建物(室町)	縄文土器, 土師器, 褐釉陶器, 白磁		
						2007	住居・溝・柱穴(古代)	縄文土器, 土師器, 須恵器, 白磁, 石器		
⑫	試	宅地造成		鵜飼	カラス田	2004	遺構なし	須恵器	市教委	―
⑫	試 発	打堀山C遺跡	携帯基地局	鵜飼	打堀山	2004	土坑	土師器	市教委	―
⑫	試	物流倉庫建設		鵜飼	カラス田	2005	遺構なし		市教委	―
⑫	発	砂原遺跡	朝日上通り線	元町	砂原	2005	流路(縄文), 水路(弥生～古墳), 区画溝(奈良～平安), 畦畔(平安末～鎌倉), 掘立柱建物(中世)	縄文土器, 緑釉陶器, 白磁, 石鏃, 石包丁	市教委	―
				元町府中	砂原など	2006	流路(縄文), 掘立柱建物(中世)	縄文土器, 緑釉陶器, 白磁, 石鏃		
	試			府中	永井	2008	遺構なし			
	発			元町	砂原など	2009	土壙（弥生～古墳）	弥生土器，土師器，須恵器		
⑫	試	マンション建設		鵜飼	清水	2005	遺構なし		市教委	―
⑫	試	元町東遺跡	ケアセンター建設	元町	コヤ田	2006	掘立柱建物(中世後半)	緑釉陶器, 青磁	市教委	28
⑫	発	ツジ遺跡			松原	2007	貯蔵穴(弥生), 掘立柱建物(古代)	弥生土器, 土師器, 須恵器, 緑釉陶器, 白磁		
⑫	試	門ノ前遺跡	敷地造成工事	元町	板ヤ	2007	溝(古代～中世)	土師器, 須恵器, 白磁	市教委	―
⑫	試	集合住宅敷地造成工事		高木	下開	2007	遺構なし		市教委	―
⑫	試	芦高遺跡	目崎・二本木線	出口	芦高耕地	2009	柱穴	土師器，須恵器	市教委	30
	発					2010	柱穴，溝	土師器		―
⑫	試	国府小学校新築工事		高木		2010	遺構なし		市教委	31
⑫	試	門ノ前遺跡	宅地造成	元町	マヘ	2011	溝	土師器，須恵器	市教委	32
⑫	試	市道本山鵜飼線道路改良工事		鵜飼広谷		2012	遺構なし		市教委	―
⑫	試	町田遺跡	ケアセンター建設	鵜飼	町田	2012	土抗・ピット	須恵器	市教委	―
	発					2012	土抗・ピット	須恵器	市教委	―
⑫	試	宅地造成		鵜飼	町田	2012	遺構なし		市教委	―
⑫	試	寺ノ前遺跡	ショートステイ建設	鵜飼	寺ノ前	2012	包含層(弥生), ピット(古代～中世)	弥生土器，土師器，須恵器	市教委	―

（ｃ）周辺の主な遺跡

番号	調査名称	地区		備考	文献
⑦	龍王山古墳群 内堀山遺跡群	鵜飼	龍王山･打堀山･ 清財･内堀	龍王山古墳群Ａ～Ｄ支群, 打堀山Ａ～Ｃ遺跡, 清財遺跡, 内堀東遺跡, 内堀西Ａ･Ｂ遺跡	― 32
㊴	清水遺跡	鵜飼	清水	伝瓦出土地	1
㊴	大坪遺跡	広谷	大坪	伝瓦出土地	
㊴	平佐遺跡	広谷	平佐など	弥生土器出土地	
㊴	福輪塚古墳群	鵜飼	十輪院谷	箱式石棺	
㊴	雄立古墳群	広谷	仁河田山	破壊	
㊴	宇呂木古墳群	広谷	ウロウギ	円墳6基, 箱式石棺, 人骨（赤色顔料）	
㊴	御旅古墳	中須	御旅	小型銅鏡採集	37
㊴	門田池南遺跡	元町 本山	片岡など	散布地,「本山農協前遺跡」（縄文土器出土）含む, 旧「門田遺跡」	
㊴	ドウジョウ遺跡	元町	ドウジョウなど	現在地に心礎状の石	
㊴	横井遺跡	府中	横井	弥生土器, 古式土師器（工事中出土）	
㊴	二宮神社遺跡	府川	田中	散布地, 旧「府川遺跡」	

県教委：広島県教育委員会，県埋文：広島県埋蔵文化財センター，（財）埋文：財団法人広島県埋蔵文化財調査センター，
市教委：府中市教育委員会，調査団：府中市埋蔵文化財調査団，町教委：新市町教育委員会

参考文献

1　広島県教育委員会　『備後国府跡―推定地にかかる第1次調査概報―』　1983
2～7　広島県立埋蔵文化財センター　『備後国府跡―推定地にかかる第2～7次調査概報―』　1984～1989
8～10　財団法人広島県埋蔵文化財調査センター　『備後国府跡―推定地にかかる第8～10次調査概報―』　1990～1992
11　広島県教育委員会　『伝吉田寺跡発掘調査概報』　1968
12　谷重豊季　「備後国府付近の山陽道」『古代交通研究』第5号　古代交通研究会　1996
13　府中市埋蔵文化財調査団　『備後国府跡―都市計画道路建設にともなう発掘調査概報―』　1989
14・15　府中市教育委員会　『備後国府跡―推定地にかかる1990・1991年度調査概報―』　1992・1993
16～32　府中市教育委員会　『府中市内遺跡１～17』府中市埋蔵文化財調査報告書第6～9・11・12・15～26冊　1995～2013
33　財団法人広島県埋蔵文化財調査センター　『打堀山遺跡群Ａ・Ｂ地点』　1997
34　府中市教育委員会　『府中市文化財紀要１』　府中市文化財紀要第１冊　2012
35　府中市教育委員会　『坊迫遺跡群』　府中市埋蔵文化財調査報告第13冊　2001
36　府中市教育委員会　『府中・山ノ神1号古墳発掘調査報告』　1983
37　財団法人広島県埋蔵文化財調査センター　『山の神遺跡群・池ノ迫遺跡群』　1998
38　財団法人広島県埋蔵文化財調査センター　『門田Ａ遺跡・東槇木山第1・4号古墳』　1999
39　脇坂光彦　「府中市中須町大字寺迫字御旅出土の鏡」　『芸備』第3集　1975

第2節　調査の目的・方針

以上の経緯を受けて，事業の目的・方針を以下に掲げる。

〈目　的〉

府中市内遺跡発掘調査は，府中市街地遺跡群及び市内に所在する各遺跡における個人住宅建築その他の開発事業に対応するために遺跡の内容・範囲確認調査及び緊急調査を実施し，既往の調査によって検出された遺構との関連性を把握することで，芦田川中・下流域における遺跡群の内容・性格を明らかにする。特に，その中心的な遺跡である備後国府跡とその関連遺跡については，府中市の歴史的資源として整備・活用し，今後のまちづくりに活かすことを目的とする。

〈方　針〉

個人住宅等の建築に伴い，遺構が破壊される恐れのある宅地を調査の対象とし，宅地のうち発掘調査によって掘削を加える部分は，住宅等の半恒久的な建造物を建築する部分を考慮して実施する。

並行して，府中市街地遺跡群及び各遺跡の推定範囲内において，範囲・内容確認を目的とする確認調査を実施する。特に，備後国府跡とその関連遺跡について平成15(2003)年度に立ち上げた「国府プロジェクト」は，国府政庁の確定を念頭においたもので，政庁が発見されるまでは事業が進展しないという実態にあった。しかし，政庁が確認できないまでも備後国府関連遺跡として十分に史跡指定にも堪えうるものがあるため，平成23(2011)年度に「国府プロジェクト」の推進計画を見直し，政庁発見にこだわらず史跡指定を目指すとともに，段階的に遺跡の保護・活用を図ることとする。

第3節　調査の組織

(a) 事業組織

平成25年度の事業組織は次の通りである。なお，これまでの事業組織については，各年度の概要報告によっていただきたい。

《事業主体》

広島県府中市

《事業執行体制》

〈調査主体者〉

府中市教育委員会

教育長　　平谷昭彦

〈調査指導組織〉

府中市文化財保護審議委員会

委員長　　小川稔

副委員長　門田亨

委員　　石口薫
　　小田原昭嗣（埋蔵文化財担当）
　　甲斐泰弘
　　田中律子（平成25(2013)年10月1日～）
　　西村直城

府中市備後国府跡調査研究指導委員会

委員長　西別府元日（広島大学大学院文学研究科教授）
副委員長　佐藤昭嗣（岡山商科大学経営学部教授）
委員　　大橋泰夫（島根大学法文学部教授）
　　坂井秀弥（奈良大学教授）
　　松下正司（比治山大学名誉教授）
　　三浦正幸（広島大学大学院文学研究科教授）

〈事務組織〉

教育委員会事務局

教育部長　　九十九浩司（平成25(2013)年4月1日～）
総務課長　　河本幹男
庶務係長　　山田資子（平成25(2013)年4月1日～）
主幹兼文化財係長　　大上裕士
文化財係　主　任　　土井基司（～平成25(2013)年12月31日）
　　主　任　　磯久容子
　　主　任　　道田賢志
　　主任主事　　石口和男

〈調査組織〉

調査担当　　土井基司，磯久容子，道田賢志，石口和男
整理作業員　　橘髙利枝，松尾雅子，安原照美，山本奈津子

そして，府中市教育委員会が独自の調査を実施することとなった平成2(1990)年から25年度までの間，お世話になった調査協力・助言者，調査作業員，地元協力者の方々を改めて列記し，謝意を表します。

《調査協力・助言者》

青山透，安間拓巳，石垣敏之，伊藤実，井上喜久男，猪原千恵，内田実，内田雅子，内山ひろせ，植田千佳穂，惠谷泰典，大川泰広，岡野将士，沖憲明，尾崎光伸，尾多賀晴悟，小都隆，尾上実，鍜治益生，加藤謙，亀井明徳，亀田修一，唐口勉三，川越政人，橘田正徳，久下実，桑原隆博，三枝健二，坂井秀弥，佐藤一夫，沢元保夫，鹿見啓太郎，篠原芳秀，柴田喜太郎，下津間康夫，

杉山一雄，鈴木康之，妹尾周三，高橋孝二，高橋照彦，竹広文明，巽淳一郎，田中良之，田邊英男，谷重豊季，時元省二，中越利夫，中山学，野島永，橋本久和，葉杖哲也，日野尚志，平川孝志，平林工，福井照道，福島政文，福田正継，藤岡孝司，藤野次史，本田光子，古瀬裕子，松井和幸，三好和宏，村上朋子，向田裕始，森重彰文，百瀬正恒，森島康雄，山田繁樹，山本悦世，桒留秀敏，四柳嘉章，脇坂光彦，渡邊昭人

《調査作業員》

阿賀巧，浅野明，粟根文雄，粟根義則，荒川常夫，石川角夫，石川角尾，石川武夫，入江純，大石千年，小川清人，海原昭三，川崎観一，橘高定治，桑田栄三，桒田清司，小坂家久夫，小林久夫，佐伯一，迫一，佐々田昇一，佐々田博，信本敬一，信本義良，新納茂，高橋剛，高山恒男，田原徳郎，戸坂皓，豊田茂，頓田忠，中井義則，西本照夫，萩原忠興，橋本伊佐男，平田敏秋，深田暢夫，藤原澄子，藤本久志，前田茂喜，前原清志，正門信重，松尾伸人，松川敏通，松原理夫，三迫美智夫，宮口多喜男，宮崎四郎，森川醒志，山崎明，山田福治，和田辰夫，渡邊泰法

《地元協力者》

赤松稔，浅野誠三，芦品住宅株式会社，荒木斉，荒木キヨコ，荒木常夫，荒木了，池尻範生，石元八郎，稲尾宣之，伊吹誓祐，伊吹洋次，医療法人同仁会府中中央内科病院，浦上修，浦上秀男，ＳＡエンジニアリング，延藤裕，大蔵省中国財務局，大崎博司，大塚美智江，株式会社セブン－イレブン・ジャパン，橘高寅夫，紀本美枝子，共栄店舗株式会社，久我孝顕，栗原茂，小林勝行，小林洋之，坂本建設工業株式会社，佐々田崇一，佐々田土建桒，佐藤定人，佐藤信之，三備住研株式会社，ＪＡ広島厚生連府中総合病院，宗教法人栄明寺，宗教法人金龍寺，宗教法人青目寺，宗教法人潮音寺，芝内辰夫，住田賢治，住田修治，大宗建設株式会社，高尾愛子，高尾文寛，高橋優，たから印刷，武田崇司，竹本虎生，田村雅夫，時元義明，永田久男，縄稚清子，難波富三郎，西橋保雄，西本龍藏，日本たばこ産業株式会社，萩原廣司，東光儀，広川良江，ひろしま木工株式会社，藤井得實，藤岡聰文，藤岡成輝，藤岡孝治，藤坂和彦，藤田英太郎，藤本命壮，府中市土地開発公社，府中市立広谷小学校，別所治栄，別所成紀，細川秀章，前場孝司，松田雄次，松原理夫，松原尚行，松原百合子，松原義秀，道下組，門田明寿，門田早苗，門田尚久，山本多江子，吉岡重徳

第４節　作業の方針と経過

（ａ）本報告書作成の経過

約三十年間に及ぶ調査成果の蓄積を現段階において一度総括することは，市として今後の調査研究および遺跡の活用を図る上で意義あるものと考え，“国府プロジェクト”を立ち上げたことは既に述べた。市教委文化財係としては調査指導委員会と諮りながら，また県教委文化財課および文化庁記念物課の協力と指導を得て，まずは備後国府関連遺跡の総括報告書を作成することとした。

備後国府関連遺跡については，市単独事業および国庫補助事業として20冊の調査報告書が刊行されている。各調査報告書において，ほぼ年度単位の調査成果について遺構・遺物ともに報告・公表されている。また，それ以前の県教委調査についても次数（年度）単位の調査成果が『備後国府跡－推定地にかかる●次調査概報－』として刊行されている。各調査報告書各年度単位で実施されている調査成果は，やはり各年度単位での調査報告書として刊行され，各報告書において周辺の既往調査成果をふまえた遺構・遺物についての整理や考察が行われている。しかしながら，広範囲に広がり且つ宅地化が進んでいる状況下にある備後国府関連遺跡について，単年度の報告書だけで備後国府全体を把握するためには非常に困難な状況を生じさせている。そうした状況を打開し，さらに今後の方向性や課題を明確化させていく上でも，既往の調査成果の集約と検討は必要不可欠と判断したのである。

（ｂ）整理作業・本報告書作成の方針

総括報告書を作成するにあたり，次のような方針のもと作業を進めることとした。

① 備後国府関連遺跡に必要な保護および活用措置をとるために，これまでの調査成果を本書において整理・集約して，総括的な検討を行う。

② 作業を進めていく過程で，その内容および成果を調査指導委員会において検討し，課題を明確にして方向性を打ち出す。

以上のような基本的方針の下，協議・検討を重ねた結果，本報告書の基本的な内容についてつぎのように設定した。

① 備後国府関連遺跡の中でも最も調査が進展しているツジ遺跡・元町東遺跡と金龍寺東遺跡を中心に既往調査成果の集約と検討を行う。また，その他の備後国府関連遺跡の調査成果についても，未報告の状態である開発対応の試掘調査や記録保存目的の調査成果についての概要を公表することで，現段階における備後国府全体像について把握できるようにする。

② 2011年度までの調査成果については，「府市17」とそれまでの既刊報告書において報告されているが，2012・2013年度においてツジ遺跡において実施された調査については，報告書が刊行されていないため，その成果を本報告書において取り扱うことで公表することとする。また，2013年度にツジ遺跡・元町東遺跡で実施した地中レーダー探査の成果も掲載し，検討材料として取り扱うこととする。

（c）報告書の構成

報告書は二分冊で構成されている。第一分冊では，遺跡の位置と環境および県教委の調査成果などのこれまでの調査の経過と概要をまとめ，さらに備後国府関連遺跡の地区と時間軸の設定までを掲載している。第二分冊では，各地区の主要遺構と，第一分冊である本書において掲載された須恵器・土師器以外の主要な出土遺物を種別ごとにまとめて掲載している。さらに各遺構と出土遺物の検討結果を考察し，各地区での遺構の時期や配置の変遷案を総括として掲載している。

遺構および遺物に関する基礎的なデータは一覧表において集約している。本報告書の構成上，そのほとんどが第二分冊での掲載となっているが，概ね既刊報告書において掲載されたものの再掲であり，中にはその後の検討により解釈が変わったものもあれば，新たに掲載して取り扱ったものがある。しかしながら，既刊の各報告書が一次資料となるため，各報告書の内容を確認した上で本報告書と併せて利用されたい。

【備後国府関連遺跡既刊報告書一覧】

広島県教育委員会 1968 『伝吉田寺跡発掘調査概報』
広島県教育委員会 1983 『備後国府跡―推定地にかかる第1次調査概報―』
広島県立埋蔵文化財センター 1984 『備後国府跡－推定地にかかる第2次調査概報－』
広島県立埋蔵文化財センター 1985 『備後国府跡－推定地にかかる第3次調査概報－』
広島県立埋蔵文化財センター 1986 『備後国府跡－推定地にかかる第4次調査概報－』
広島県立埋蔵文化財センター 1987 『備後国府跡－推定地にかかる第5次調査概報－』
広島県立埋蔵文化財センター 1988 『備後国府跡－推定地にかかる第6次調査概報－』
広島県立埋蔵文化財センター 1989 『備後国府跡－推定地にかかる第7次調査概報－』
㈶広島県埋蔵文化財調査センター 1990 『備後国府跡－推定地にかかる第8次調査概報－』
㈶広島県埋蔵文化財調査センター 1991 『備後国府跡－推定地にかかる第9次調査概報－』
㈶広島県埋蔵文化財調査センター 1992 『備後国府跡－推定地にかかる第10次調査概報－』
府中市埋蔵文化財調査団 1989 『備後国府跡－都市計画道路建設にともなう発掘調査概報－』
府中市教育委員会 1992 『備後国府跡－推定地にかかる1990年度調査概報－』
府中市教育委員会 1993 『備後国府跡－推定地にかかる1991年度調査概報－』
府中市教育委員会 1995 『府中市内遺跡1 － 1993年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 1996 『府中市内遺跡2 － 1994年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 1997 『府中市内遺跡3 － 1995年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 1999 『府中市内遺跡4 － 1996・1997年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2000 『府中市内遺跡5 － 1998年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2001 『府中市内遺跡6 － 1999年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2002 『府中市内遺跡7 － 2000年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2004 『府中市内遺跡8 － 2001・2002年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2005 『府中市内遺跡9 － 2003年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2006 『府中市内遺跡10 － 2004年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2007 『府中市内遺跡11 － 2005年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2008 『府中市内遺跡12 － 2006年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2009 『府中市内遺跡13 － 2007年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2010 『府中市内遺跡14 － 2008年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2011 『府中市内遺跡15 － 2009年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2012 『府中市内遺跡16 － 2010年度調査に関する報告－』
府中市教育委員会 2013 『府中市内遺跡17 － 2011年度調査に関する報告－』

第４章　地区と時間軸の設定

第１節　地区の設定（図3，表2）

府中市街地遺跡群において，備後国府関連遺跡が広がっていると考えられるその範囲は，東西約3㎞，南北約0.5kmと広大である。これまでに市街地遺跡群内での個々の遺跡名称は，小字名や通称などを用いた固有名称を使用してきた（例：金龍寺東遺跡）。さらに，発掘調査などによって古代の遺跡であることが確認された場合は，内容によって「備後国府跡」または「備後国府関連遺跡」を個々の名称に冠して使用している（例：備後国府跡　金龍寺東遺跡）。しかし，これは各遺跡の調査時点において，当該地区の地名を当てはめた便宜的なものであり，かならずしも備後国府に関係した一定の区画ないし施設の直接的な性格や機能が反映されたものではない。

これまでに伝吉田寺跡・金龍寺東遺跡のグループ，音無川以西の元町西グループ，以東の元町東グループとしていた元町を中心とした地域では，保存目的や開発確認および記録保存目的の調査が比較的進展している。その結果として，当初設定された複数遺跡にまたがって備後国府関連遺跡が広がっていることが判明し，当該期の遺跡の範囲については見直しが必要となっている。例を挙げればツジ遺跡から元町東遺跡一帯については，区画溝の検出によって東西約110ｍ，南北約120ｍの正方位の官衙区画が推定され，さらに隣接して別の官衙区画をも想定し得るような状況となっている。こうした囲繞施設によって括られる一定の区画は，その範囲内における遺跡の性格または機能上の共通性を持つものと想定し得るのであり，備後国府関連施設を反映したものと考えられる。しかしながら，備後国府関連遺跡において政庁と確認できる遺構は現段階で確認されておらず，ツジ遺跡・元町東遺跡と比較すると，その他の遺跡については一定の区画が把握されるには至っていないという現状にある。

以上のように，元町を中心とした地域においても，各遺跡での備後国府に関連する遺跡全容の解明は中途段階といえる。こうした状況を踏まえ，本報告書では各遺跡の調査成果の中から，現段階における備後国府関連遺跡に関係する調査成果を抽出して総括するため，ツジ遺跡・元町東遺跡と金龍寺東遺跡を中心に元町に所在するその他の主要関連遺跡において，便宜的に「地区」を設定して取り扱うこととする。市街地遺跡群における備後国府関連遺跡を改めて設定した地区と調査区との関係は図３と表２のとおりとなる。

なお，この設定された「地区」については，その延長上に一定の区画と性格を視野に入れて想定しているが，あくまでも本報告書内で現段階での総括を目的として設定したものであり，各地区での今後の調査の進展によって見直されるべきものである。

これまでにツジ遺跡および元町東遺跡としてきた一帯については，最も遺跡の内容確認調査が進展している地域である。本報告書においては，この地域をあらためてさらに東西約百十ｍ，南北約百二十ｍの正方位の推定区画内を「ツジＣ地区」，0601ＴＳＤ６を境に東側を「ツジＥ地区」，0903ＴＳＤ４・５を境に北側を「ツジＮ地区」というような三つの小地区に分けて取り扱うこととする。

次いで伝吉田寺跡および金龍寺東遺跡一帯についての取り扱いについて述べる。伝吉田寺跡は飛鳥～平安時代の寺院跡で，従来から法起寺式の伽藍配置が推定されている。しかし全容は明らかになっておらず，その東側で隣接して確認されている金龍寺東遺跡との間には，遺構として明瞭な区画施設が検出されていない。寺域または遺跡の範囲が明確に定まっている訳ではないが，「伝吉田寺地区」と「金龍寺東地区」の二つの小地区に分けて取り扱うこととする。

この他にドウジョウ遺跡，砂山遺跡，ホリノ河内遺跡，大マへ遺跡を代表的な遺跡として取り上げ，それぞれ「ドウジョウ地区」，「砂山地区」，「ホリノ河内地区」，「大マへ地区」として取り扱うこととする。

表２　地区別調査地一覧表

遺跡	地区	調査区	調査年度	備考	報告書
ツジ遺跡・元町東遺跡	ツジC	県305T	1984		
		県306T	1984		「県備国３次」
		県402T	1985		「県備国４次」
		県605T	1987		「県備国６次」
		9001T	1990		「市備国90」
		9802T	1998		「府市５」
		9901T	1990		「府市６」
		0301T	2003		「府市９」
		0501T	2005	奈良三彩小壺	「府市11」
		0502T	2005		「府市11」
		0601T	2006	SD4･5以西	「府市12」
		0602T	2006	主殿的建物	「府市12」
		0702T	2007	SD4･5以西	「府市13」
		0708T	2007		「府市13」
		07ケアセン	2007		「府市13」
		0801T	2008		「府市14」
		0802T	2008		「府市14」
		0902T	2009		「府市15」
		0903T	2009	北辺区画溝	「府市15」
		0904T	2009		「府市15」
		1001T	2010	北辺区画溝	「府市16」
		1003T	2010		「府市16」
		1102T	2011		「府市17」
		1103T	2011		「府市17」
		1104T	2011		「府市17」
		1105T	2011		「府市17」
		1201T	2012		—
		1202T	2012		—
		1301T	2013		—
	ツジE	県605T	1987		「県備国６次」
		9104T	1991		「市備国91」
		0003T	2000		「府市７」
		0104T	2001		「府市８」
		0203T	2002		「府市８」
		0505T	2005		「府市11」
		0506T	2005	東西区画溝	「府市11」
		0601T	2006	SD6以東	「府市12」
		0603T	2006		「府市12」
		0701T	2007		「府市13」
		0702T	2007	SD6以東	「府市13」
		0703T	2007		「府市13」
		1004T	2010		「府市16」
	ツジN	県301T	1984		「県備国３次」
		県302T	1984		「県備国３次」
		県303T	1984		「県備国３次」
		0202T	2002		「府市８」
		0401T	2004		「府市10」
		1002T	2010		「府市16」
大マへ遺跡	大マへ	0201T	2002		「府市８」
		0402T	2004	南北区画溝	「府市10」
		0503T	2005		「府市11」
		0504T	2005		「府市11」
		06ケアセン試掘	2006		「府市13」
		0704T	2007		「府市13」
		0705T	2007		「府市13」
		0706T	2007		「府市13」
		0707T	2007		「府市13」

遺跡	地区	調査区	調査年度	備考	報告書
伝吉田寺跡・金龍寺東遺跡	伝吉田寺	県67吉田寺	1967	塔 講堂跡	「県伝吉田寺」
		94吉田寺	1994		「府市９」
		0303T	2003		「府市９」
	金龍寺東	9103T	1991	基壇建物A	「市備国91」
		9301T	1993	基壇建物A	「府市１」
		9302T	1993	基壇建物A	「府市１」
		9303T	1993	基壇建物A	「府市１」
		9304T	1993	基壇建物A	「府市１」
		9305T	1993	基壇建物A	「府市１」
		9306T	1993	基壇建物A	「府市１」
		9401T	1994	基壇建物B	「府市２」
		9402T	1994		「府市２」
		9403T	1994		「府市２」
		9501T	1995		「府市３」
		9502T	1995		「府市３」
		95金龍寺東下水	1995	基壇建物A	「府市３」
		9702T	1997	区画溝？	「府市４」
		9703T	1997		「府市４」
		9801T	1998		「府市５」
		9902T	1999		「府市６」
		9903T	1999		「府市６」
		0001T	2000	苑池？	「府市７」
		0101T	2001		「府市８」
		0102T	2001		「府市８」
		0103T	2001		「府市８」
ドウジョウ遺跡	ドウジョウ	02ドウジョウニ中試掘	2002	丹塗土師器	—
		02ドウジョウ試掘	2002		—
		03ドウジョウ試掘	2003		—
		04ドウジョウ1T	2004		—
		04ドウジョウ2T	2004		—
		04元町試掘1T	2004		—
		05元町	2005		—
		06元町	2006		—
		06二中G	2006		—
		07二中G	2007	東西区画溝？	—
		0803T	2008	東西区画溝	「府市14」
		0901T	2009		「府市15」
砂山遺跡	砂山	県401T	1985		「県備国４次」
		県403T	1985		「県備国４次」
		県404T	1985		「県備国４次」
		県601T	1987		「県備国６次」
		県602T	1987		「県備国６次」
		県603T	1987		「県備国６次」
		県604T	1987		「県備国６次」
		88砂山街路	1988	倉庫	「市備国88」
		0002T	2000		「府市７」
ホリノ河内遺跡	ホリノ河内	県506T	1986		「県備国５次」
		01ホリノ1T	2001		—
		01ホリノ2T	2001		—
		01ホリノ3T	2001		—
		03ホリノ4T	2003		—
		0709T	2007		「府市13」
		1101T	2011		「府市17」

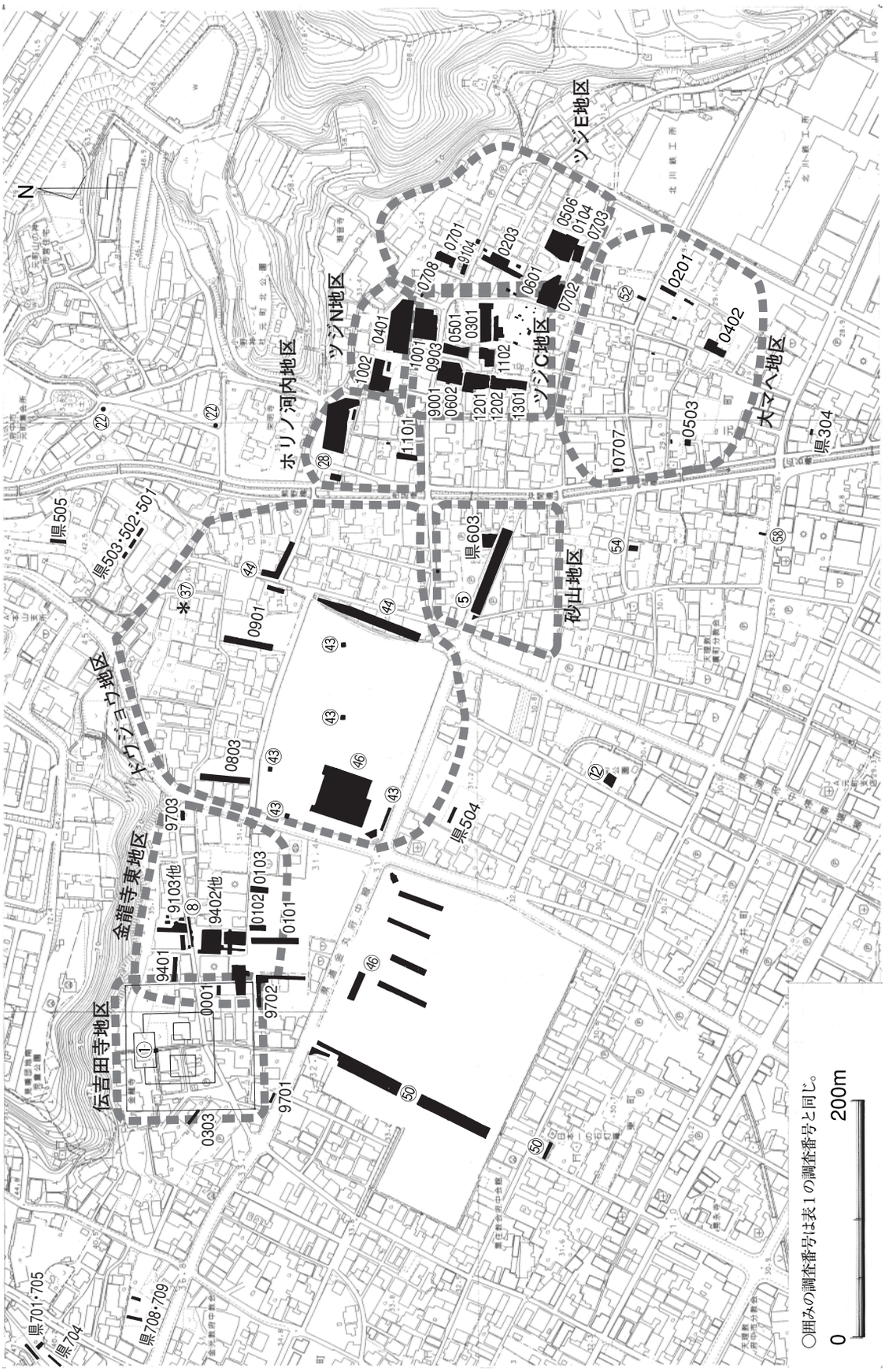


図3　元町周辺調査区及び地区配置図（縮尺1/5,000）

第２節　時間区分の設定

備後および安芸地方に分けられる広島県内において，奈良時代から平安時代の土器生産地および消費地の遺跡調査例は少なく，有用な資料は未だ断片的と言わざるを得ない状況である。

県内における土器生産遺跡としては，現在の三原市久井町一帯に所在する御調窯跡群がまとまって調査が実施されている。御調窯跡群は，一帯が８世紀前半から11世紀後半にかけての有数の須恵器窯跡の密集地帯として知られており，安芸と備後の境界に近くまた古代山陽道にも近接することから，“官衙と密接な関係を持つ官窯的性格を持つ窯として築窯された”と推測されており，生産品が国府へ持ち込まれたことは十分想定される。

消費地遺跡としては，やはり備後国府関連遺跡からの出土資料が質量ともに突出している。しかし出土資料の概況としては，後世の整地等によって形成された遺物包含層からの出土遺物が大半を占めており，遺構に伴う一括資料は少なく，さらに確実な実年代を示す資料を伴う基準指標となる資料に至ってはさらに乏しいといえる。

備後国府関連遺跡における年代観を考える上で，その重層的な遺構群と遺物群を，現段階で備後国府関連遺跡の資料だけで土器型式を設定して変化を追うことは極めて困難である。しかし，備後地域の古代遺跡を検討するうえで，現段階までに約三十年間の調査の蓄積によって得られた知見が反映された備後国府関連遺跡の土器編年を提示することについては，古代備後国における一大消費遺跡である国府関連遺跡の研究を進展させるために意義あるものと考える。なお，この編年案はあくまでも備後国府関連遺跡の遺構および遺物の時間的位置付けを行うためのものであるため，備後国全域にわたって適応できるものでないことを予め断っておく。

（ａ）編年に用いた基準資料と指標（図４～７，表３）

これまでに備後国府関連遺跡の出土土器による時期区分についてまとめられたものとしては，1991年に示された編年案くらいである。この編年案では，福山市津之郷町坂部に所在するザブ遺跡のＦ区３号土坑の10世紀前半頃の一括資料と，やはり福山市の草戸千軒町遺跡の草戸Ⅰ期の13世紀後半頃の資料など備後南部の基準となる資料と備後国府関連遺跡の調査から得られた成果の検討を行うことで，10世紀前半から13世紀後半までの須恵器と土師器の変遷が示されていた。

よって，今回はこの1991年の編年案にその後の調査において蓄積された成果の中から，確実な時期が抑えられる一括資料を加え，さらに備後国府関連遺跡以外の備後周辺で時期が特定されている遺跡の資料を用いて補強することで，基準資料として半世紀単位の変化が追えるように並べた。またその隣には，並行する時期の備後国府関連遺跡から出土した資料を参考資料として提示している。このことにより，型式を設定するには至らなかったが，備後国府関連遺跡の出土土器の時期的な変化の流れが概ね把握されるものと思われる。なお，基準資料および参考資料として扱う器種としては，須恵器と土師器の杯・椀・皿が最もどの時期においても普遍的に出土し，変化の特徴を抽出することに適していると判断し，これらを基軸にして検討を行った。

表３　時期区分の基準資料と指標

暦年代	７C末～８C初	８C前半	８C後半	９C前半	９C後半	10C前半	10C後半	11C前半	11C後半	12C前半	12後半	13C前半
備後国府関連遺跡基準資料	0501T：SX２						県804T：3・4層	県701T：SK725	県604T：SE618	県401T：SE401	県603T：SD608	
備後国府関連遺跡参考資料	1102T：SX１ 0506T：SD３	0501T：SX１ 9402・03T：P22	0803T：SD12～SX１	0301T：SK1		9501T：瓦集中			1102T：SE１	1002T：SE1下層	88砂山街路：SE3	1301T：SE1
年代根拠	飛鳥Ｖ並行(0501T)		平城京Ｖ期			緑釉(篠産) 灰釉(美濃産)	緑釉(近江産) 篠窯須恵器鉢C		白磁●類(SE618) 「て」の字状皿	瓦器(楠葉産) 白磁壺(11後～12初)	白磁Ｖ類	青磁龍泉Ｉ類 瓦器(和泉Ⅳ)
他遺跡基準資料		小林 1号窯 許山窯	熊ヶ迫2・4・8号窯 切田原2号窯	熊ヶ迫7号窯 下郷桑原	熊ヶ迫3号窯 大蕨2号窯	熊ヶ迫６号窯 ザブSK3・自彊			熊ヶ迫1号窯 石鎚山中世墳墓群			吹越中世墳墓群
須恵器												
杯蓋	ツマミ:扁平擬宝珠状 かえり:有・無混在	ツマミ:ボタン状 口縁：端折り曲げ	ツマミ:ボタン状 口縁：端外開き 天井部：平坦化	口径：小型化 天井部：さらに平坦化	ツマミを有するものと無いものが混在	蓋消失？						
無高台杯(椀) 杯A 椀A	体～底:内湾丸い 底部：ヘラケズリ	体～底:内湾丸い 底部：ヘラケズリ丸～平底(杯A1)～9C後半	口縁端：上方折り曲げ・平底(杯A2)～9C後半 ※丸底減少(新)	杯A1と杯A2との区別不明確になる		体部:直線～やや内椀(杯A)，器高やや高く・やや内湾(椀A) 底部：ヘラ切り	体部：器高やや低い(杯A)，器高やや高い(椀A) 底部：ヘラ切り	体部:直線的・器高高い(椀A) 底部：ヘラ切り	体部：内湾・低い(3cm)～高い(5cm) 底部：ヘラ切り(ナデ・板目圧痕)	口縁：外湾 体部：内湾 糸切り平高台(SE401)	ヘラ切り平高台	
高台付杯(椀) 杯B 椀B	高台高：高い(1cm強),大型品は低い	体部：底部境に沈線または弱い稜、口径に比して器高低い 高台高：高い・低い混在、断面「く」の字	体部：やや外開き、底部境に稜(古) 稜弱くなる(新)	体部：直線的、底部境に稜有・無混在、口径に比して器高高くなる 器高低(杯B) 器高高(椀B1)	体部：直線的、器高低(杯B) 器高高(椀B1)	杯B？(ザブ) 体部：直線的(椀B1) やや内湾(椀B2) 高台：台形？	体部：直線的(椀B1) 底部：ヘラ切り後ナデ) 高台：台形？	口縁：外反 体部：内湾(椀B2) 底部：ヘラ切り 高台：三角、下垂・外開	口縁：外反 体部：内湾(椀B2) 底部：ヘラ切り 高台：三角、下垂・外開	消失？		
無高台皿：皿A	？	？	口縁部と底部境に稜	口縁部と底部境に稜	？	？	？	？	底部：ヘラ切り	消失？		
高台付皿 皿B	？	？	口縁部と底部境に稜 高台：外(古)→内(新)	？	施釉陶器模倣の皿B出現	消失？						
特記事項		高杯：脚柱に杯Aまたは皿A		高杯消失		丸椀タイプ(椀B2)の出現？ 須恵器生産の衰退		杯A消失？			88街路：SE3では須恵器共伴無し	
土師器												
赤彩	有り	有り	有り(底部有)	有り(底部有り?)	有り？	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し
暗文	放射状・無し	放射状	放射状？	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し
無高台杯(椀) 杯A	体部：ヘラミガキ 底部：ナデ	体部：ヘラミガキ 底部：ナデ	体部：ヘラミガキ有・無混在 底部：ナデ	体部：ヘラミガキ？丁寧なナデ 底部：ナデ	？	体部：直線的・やや外湾 底部：ヘラ切り、ベタ高台	体部：直線的・やや内湾 底部：ヘラ切り、平底・やや丸底	？	？	体部：直線的・やや内湾 底部：ヘラ切り・糸切り	ヘラ切り：多 糸切り：少	糸切り
高台付杯(椀) 杯B	？	？	？	？	？	体部：直線的・やや内～外湾 底部：ヘラ切り	体部：直線的・やや内湾 底部：ヘラ切り	体部：内湾 底部：ヘラ切り 高台：三角形、やや外開き	椀タイプ？ 高台：外開き	？	高台：断面三角外開き断面長方下垂	
無高台皿 皿A	体部：ヘラミガキ 底部：ナデ	体部：ヘラミガキ 底部：ナデ	体部：ヘラミガキ 底部：ナデ	？	？	底部：ヘラ切り	底部：ヘラ切り	体部：直線的・内湾 底部：ヘラ切り・糸切り	口縁：ての字状 底部：ヘラ切り	底部：ヘラ切り・糸切り	底部：ヘラ切り・板目状圧痕	糸切り
高台付皿	？	？	？	？	？	有(ザブ) ←	- - -	- - -	- - -	- - - →	高台：ハの字	
特記事項			高杯：脚柱面取り			須恵器杯A・Bの模倣か 土師器小皿出現？	足高高台出現？ 黒色土器椀：内黒、内外ミガキ	土師器の底部糸切りも導入？ 黒色土器椀：内黒、内外ミガキ	土師質土器椀：ミガキ不明 黒色土器椀：内黒？内外ミガキ	土師質土器椀：内外ミガキ 黒色土器椀：内黒 白色土器写し：柱状高台(高)	土師質土器椀：内ミガキ	土師質土器椀：内ミガキ

（b）備後国府関連遺跡出土土器の様相

7世紀末～8世紀初め頃

ツジC地区の0501Tの性格不明遺構SX2からの出土資料を基準とし，さらに参考資料としてツジE地区の0506Tの区画溝SD3やツジC地区の1102Tの性格不明遺構SX1を挙げた。須恵器の杯蓋のツマミは扁平な擬宝珠状であり，口縁部の内側付近にかえりを持つものとかえりを持たずに端部を折り曲げたものが混在している。高台の無い杯Aの体部は丸く内湾しており，底部はヘラケズリが施されている。高台を持つ杯Bには，高さ1cm強の高台が付く。ただし，大型品の高台は低いようである。その他の器種として杯Aに端部を屈曲させたラッパ状の脚を付けた高杯が見られる。土師器には放射状の暗文や赤彩が施された無高台杯Aや無高台皿Aがある。器形・暗文・法量などから畿内産もしくは畿内系とされる土器群であり，飛鳥V並行期のものと考えられる。

8世紀前半

須恵器については，生産遺跡として御調窯跡群の小林1号窯跡や許山窯跡の資料を基準資料とする。高杯などを含んでいる器種構成から許山窯跡が先行するものと考えられている。杯蓋は口縁部の内側付近にかえりは見られなくなり，口縁端部は単に折り曲げたものからやや外開きになってくる。杯Aはヘラケズリの丸底のものと平底のものが存在する。高台を持つ杯Bは，外面の体部と底部との境に沈線もしくは弱い稜を持つといった地域色のあるものが出現している。高台は高いものと低いものが混在し，高台の断面形が「く」の字を呈する特徴をもったものが見られる。また，口径に比して器高が低いことがいえる。高杯も存在しており，脚柱に杯Aないし皿Aが付けられる。土師器については，同時期の資料として福山市の石鎚権現D地点遺跡のSK10出土の螺旋状の暗文が施された杯類などや三次市松ヶ迫B地点遺跡の皿・甕などが知られている。参考資料としてツジC地区の0501Tの性格不明遺構SX1出土の土師器を該期の須恵器との共伴資料として挙げておく。

8世紀後半

須恵器は，御調窯跡群の熊ヶ迫4・8号窯跡が古段階として，また熊ヶ迫2号窯跡が新段階の資料としての標識となる。杯蓋のツマミは前半から引き続いてボタン状で，口縁端部の外側への屈曲が強くなり，天井部は平坦化していく。無高台の杯Aでは丸底のものは減少傾向をたどる。この段階から平底の杯の中に口縁端部を上方に折り曲げたものが出現しており，この形態の杯は9世紀後半まで存続しているようである。高台を持つ杯Bについては，8世紀前半から引き継いだ体部と底部の境の稜がさらに顕著化するが，新段階の中で稜は弱くなっていくようである。この時期の器種構成に無高台の皿Aと有高台の皿Bが存在する。皿A・Bともに杯Bと同様に外面底部との境に稜を有している。皿Bの高台の貼付け位置については，外側から内側に縮小する変化がみられる。高杯は浅い皿が取り付けられたものが存在している。土師器についての基準資料は，前半と同様に設定できなかった。備後国府関連遺跡からの参考資料として，ドウジョウ地区の0803Tの区画溝SD12から性格不明遺構SX1出土の土師器を該期の須恵器との共伴資料として挙げている。当該資料については8世紀第3四半期を中心に9世紀前半頃までの時期幅を持った資料と考えられるため

注意を要するが，浅い窪みであるＳＸ１からSD12の埋土上層にかけてほぼ集中して出土していることから，一時期に廃棄された可能性が高い。土師器の無高台杯Ａの体部にはヘラミガキの有るものと無いものが混在するようである。高杯の脚柱は丁寧に面取り加工され，赤彩が施されている。

９世紀前半

須恵器は，御調窯跡群の熊ヶ迫７号窯跡や下郷桑原遺跡の資料が標識となっている。杯蓋は小型化・平坦化が進む。ツマミを持たない蓋の出現は確実性が低いが，中頃以降と思われる。無高台杯Ａについては，９世紀後半にかけて口縁端部を上方に折り曲げたものと直線的に外側に延ばしたものの区別が不明瞭になる。高台を持つ杯Ｂについては，口縁部から体部にかけては直線的で，やや外側への傾きが強くなり，口径に比して器高が高くなっている。さらには，器高の低いものと高い椀タイプ(椀Ｂ１)のものが出現する。底部と体部との境に見られていた稜については，残すものと無いものが存在する。無高台皿Ａは，引き続いて底部と体部との境に稜を有しているが，器高は低くなり口縁部の外反も強くなる。高台を有する皿Ｂの存在は不明である。また，高杯については９世紀以降には生産されなくなっているようだ。土師器についての基準資料は，前半と同様に設定できなかった。備後国府関連遺跡からの参考資料として，ツジＣ地区の0301 ＴのＳＫ３出土の須恵器と土師器を該期の資料として挙げている。0301 ＴのＳＫ３出土の杯Ａや皿Ａには外面および底部外面にも赤彩が施されている。また，皿Ａは須恵器皿Ａの器形と共通していることなどから概ね９世紀の資料と判断されるが，９世紀の中でも早い段階のものではないだろうか。

９世紀後半

須恵器は，御調窯跡群の熊ヶ迫３号窯跡や大蕨２号窯跡の資料で，９世紀中頃から10世紀初頭頃の標識である。杯蓋はツマミを有するものと無いものが見られる。高台を持つ杯Ｂについては，口縁部から体部にかけては直線的で，底部と体部との境に見られていた稜は見られなくなる。この時期の特徴的な器形として，施釉陶器模倣の高台付皿である皿Ｂが挙げられる。土師器についての基準資料は，前半と同様に設定できなかった。良好な一括資料がないため，備後国府関連遺跡からの参考資料として，ツジ地区の各調査区包含層出土資料を掲載している。なお，ツジ地区では同じ包含層より９世紀前半から10世紀の緑釉陶器が多量に出土していることから，該期における遺跡の継続性が窺える。

10世紀前半

須恵器は，御調窯跡群の熊ヶ迫６号窯跡の資料を標識としている。この時期には杯蓋は消滅しているようである。杯類あるいは椀類では，直線的な口縁部から体部のもののほかにやや内湾して丸みを帯びるものが見られるようになっている。椀類は前段階よりも増して，口径に比して底径が小さくなっている。底部の切り離し技法は依然ヘラ切りである。皿類については詳細不明である。土師器の標識資料としては，福山市のザブ遺跡ＳＫ3出土資料が挙げられる。篠窯跡群の前山２・３号窯段階の緑釉陶器，美濃折戸53号窯段階の灰釉陶器，黒色土器椀Ｂを伴って，多量の土師器の杯・椀・皿が出土している。無高台の杯Ａは口縁部から体部にかけては，直線的なものと外湾するもの

があり，底部切り離し技法はヘラ切りである。高台を持つ杯Ｂあるいは椀Ｂの口縁部から体部にかけては，直線的なもの(椀Ｂ1)と内湾して口縁付近で外湾(椀Ｂ2)するものがあり，高台の断面形には下垂した台形のものとハの字に開く逆三角形のものが存在する。赤彩はほぼ施されなくなると思われる。この時期から皿類でも小型の小皿が登場している。備後国府関連遺跡からの参考資料として，須恵器はツジＮ地区の1002 Ｔ包含層出土資料を掲載している。土師器の参考資料としては，金龍寺東地区9501 Ｔ瓦集中部出土資料があり，ザブ遺跡ＳＫ3出土資料と酷似している。

10世紀後半

10世紀後半の近江産緑釉陶器を伴うことから，辻高居地区の県804 Ｔ包含層である3・4層出土資料を基準資料としている。この段階では，須恵器生産が衰退して土師器の出土比率が圧倒的に増加する時期となっている。須恵器の杯Ａあるいは椀類の口縁部から体部は，前段階よりやや湾曲化が進んでいるものと考えるが，椀Ｂ2の実態は不明である。底部切り離し技法は，引き続いてヘラ切りである。土師器の杯類および椀類についても須恵器と同様に体部がやや湾曲化がしている。また，特徴的な高台部分の高い足高高台を有するものが見られるが，出現時期については不明である。備後国府関連遺跡からの参考資料として，ツジ地区の各調査区包含層出土資料を掲載している。特徴的な資料として，10世紀後半から11世紀初頭の篠窯産須恵器鉢Ｃや平安京の内裏などの中枢で限定的に儀礼的な用途で使用されたとされる土器を模倣したと思われる“白色土器写し”が出土している。この高杯のような器種の脚部は棒状のものに粘土を巻きつけて成形されているが，外面調整において丁寧に面取り加工を施すものと粗いナデやほぼ手捏ねのものが存在する。

11世紀前半

辻横田地区の県701 Ｔの一括廃棄土坑と考えられ，内外面ともにミガキが施された黒色土器椀(内黒)と共伴するSK725出土資料を基準資料としている。この段階で須恵器の杯Ａは消え，無高台で直線的な体部を持つ椀Ａと内湾して口縁付近で外湾する有高台の椀Ｂ2が存在する。土師器においても杯類は見られず，椀類が存在する。皿の底部切り離しには，ヘラ切りがほとんどであるがわずかに糸切りも混じっている。参考資料として，ツジＣ・Ｎ地区の各調査区包含層出土資料を掲載している。特徴的な資料として，足高高台から変化したと考えられる柱状高台を持つ杯または皿と考えられる器種が挙げられる。類似の土器群が出雲国府跡第9型式・第10型式に見られる。

11世紀後半

11世紀後半の白磁と口縁部が「て」の字状となる土師器小皿を伴うことから，砂山地区の県604 ＴのSE618出土資料を基準資料としている。また，須恵器では御調窯跡群の熊ヶ迫1号窯跡の資料，土師器では福山市の石鎚山中世墳墓群出土資料も標識とした。須恵器・土師器ともに椀類の体部はほぼ丸い形状になるようである。須恵器の椀には，3cm程度の器高の低いものから5cm程度の高いものが存在し，器高の高いものの口縁部付近はやや外反している。底部切り離し技法は，ヘラ切りである。前半と同様に土師器において杯類は見られず，椀類が存在し，高台は前半のものと比べて小径化が進み，外開きになっている。皿の底部切り離しには，ヘラ切りである。参考資料として，

ツジＣ地区の1102ＴのSE１出土資料を掲載している。

12世紀前半

12世紀前半の楠葉産瓦器・内外面ともにミガキが施された土師質土器椀・内黒の黒色土器椀・白色土器写しの柱状高台を伴うことから，砂山地区の県401ＴのSE401中・下層出土資料を基準資料としている。須恵器は底部切り離しが糸切りの平高台を持つ椀Ａ２のみで，椀Ｂ２は不明である。土師器では，11世紀では実態が不明となっていた杯Ａが再び登場している。底部切り離しは，ヘラ切りと糸切りが混在している。圧倒的な土師器の杯と皿の出土量がある中，わずかに須恵器がこの段階まで存在することが備後国府関連遺跡の特徴と考えられる。皿の底部切り離しも，ヘラ切りと糸切りが混在している。参考資料として，ツジＮ地区の1002Ｔの11世紀後半～12世紀初め頃の白磁壺を伴うSE１下層出土資料などを掲載している。

12世紀後半

砂山地区の県603ＴのSD608出土資料を基準とし，さらに参考資料として砂山地区の88砂山街路の白磁Ｖ類椀を伴うＳＥ３出土資料を挙げている。黒色土器椀が見られなくなり，内側のみミガキが施された土師質土器椀が数点共伴するようである。須恵器は，SD608出土のヘラ切りの平高台を持つ椀Ｂ１が１点のみであり，事例が少なく確実性は低いが，備後では最後の須恵器と考えられている。参考資料として挙げている88砂山街路のＳＥ３では須恵器は共伴していない。土師器の杯Ａの底部切り離しは，前半と同様にヘラ切りと糸切りが混在しているようである。皿の底部切り離しは，ヘラ切りに板目状の圧痕が見られる。

13世紀前半

福山市加茂町の吹越中世墳墓群の１号２号土坑墓の出土資料を基準とし，参考資料としてツジＣ地区の1301Ｔの龍泉青磁Ｉ類椀や13世紀前半の和泉産瓦器を伴うＳＥ３出土資料を挙げている。13世紀後半とされる草戸千軒町遺跡の草戸Ｉ期よりも古い段階と考えられる。土師器杯Ａと皿の底部切り離しは，糸切りのみである。高台付の皿には，20cm前後の大型のものと13cm程度の小型のものが見られる。土師質土器椀は内側のみにミガキが施され，体部の傾きもやや外に開き，浅くなっている。1301ＴのＳＥ３出土の土師器杯および小皿の中には成形が非常に粗雑なものが多く見られ，切り離しの段階で底部が裂けたため，粘土塊を粗く充填してなお裂け目が残ったままの資料が見られる。こうした事例は，土師器杯および皿といった一群が食膳用の器ではなく，井戸廃棄のような儀礼的な場面で使用するために作り出された土器群と考えられる。

以上，備後国府関連遺跡から出土する須恵器と土師器について検討を行った。あらためて良好な遺構一括資料や実年代を与えうる資料と共伴例が少なく雑駁とならざるを得ないが，三十年間の調査で膨大な出土量となっている資料の一応の整理はできたと思われる。今後の有用な資料の増加を待ちつつ，備後国府研究の山積みとなっている課題解決に向けて，本稿が資することができれば幸いである。

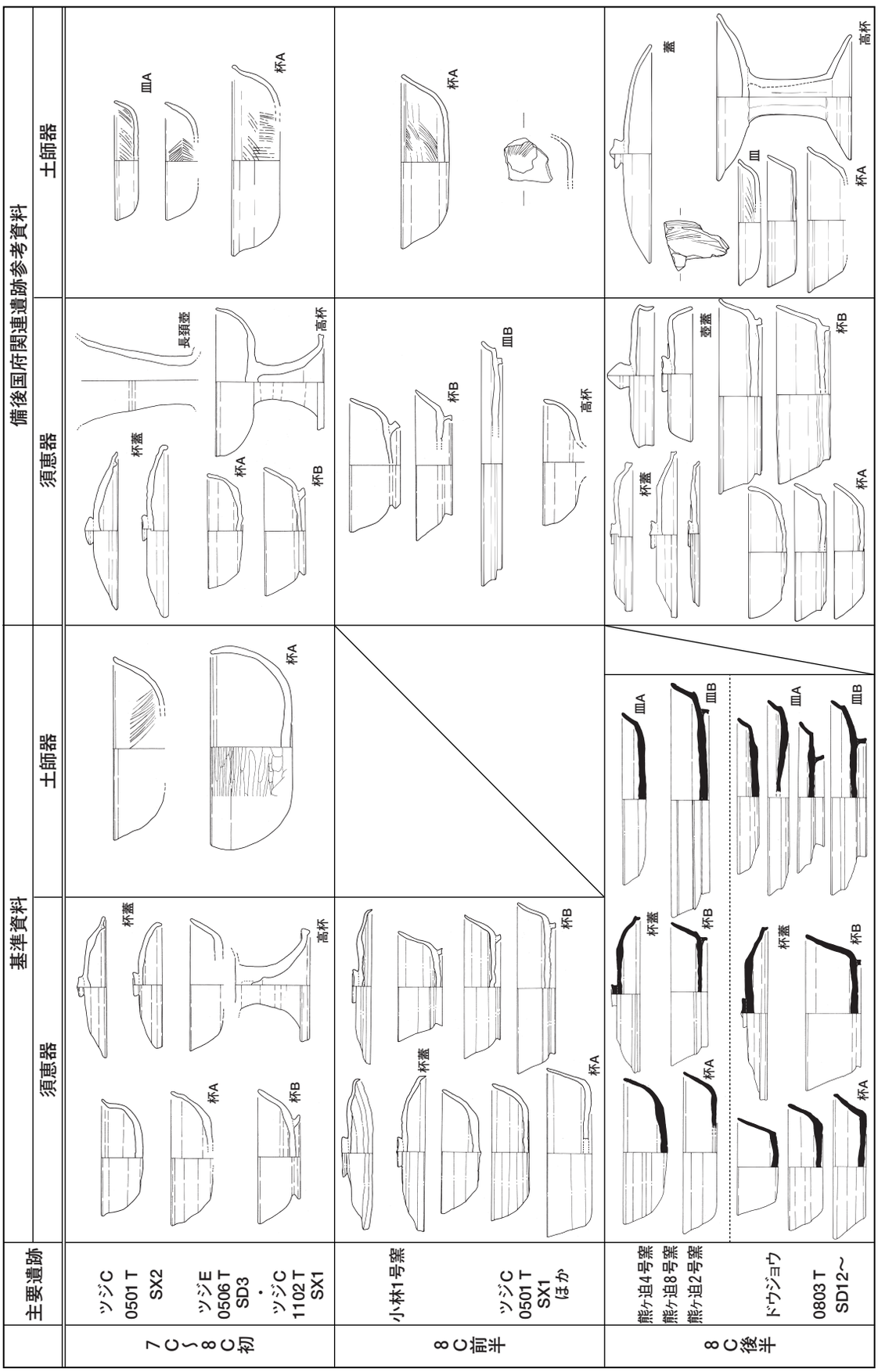


図4　備後国府関連遺跡の土器変遷図（1）（縮尺1/6）

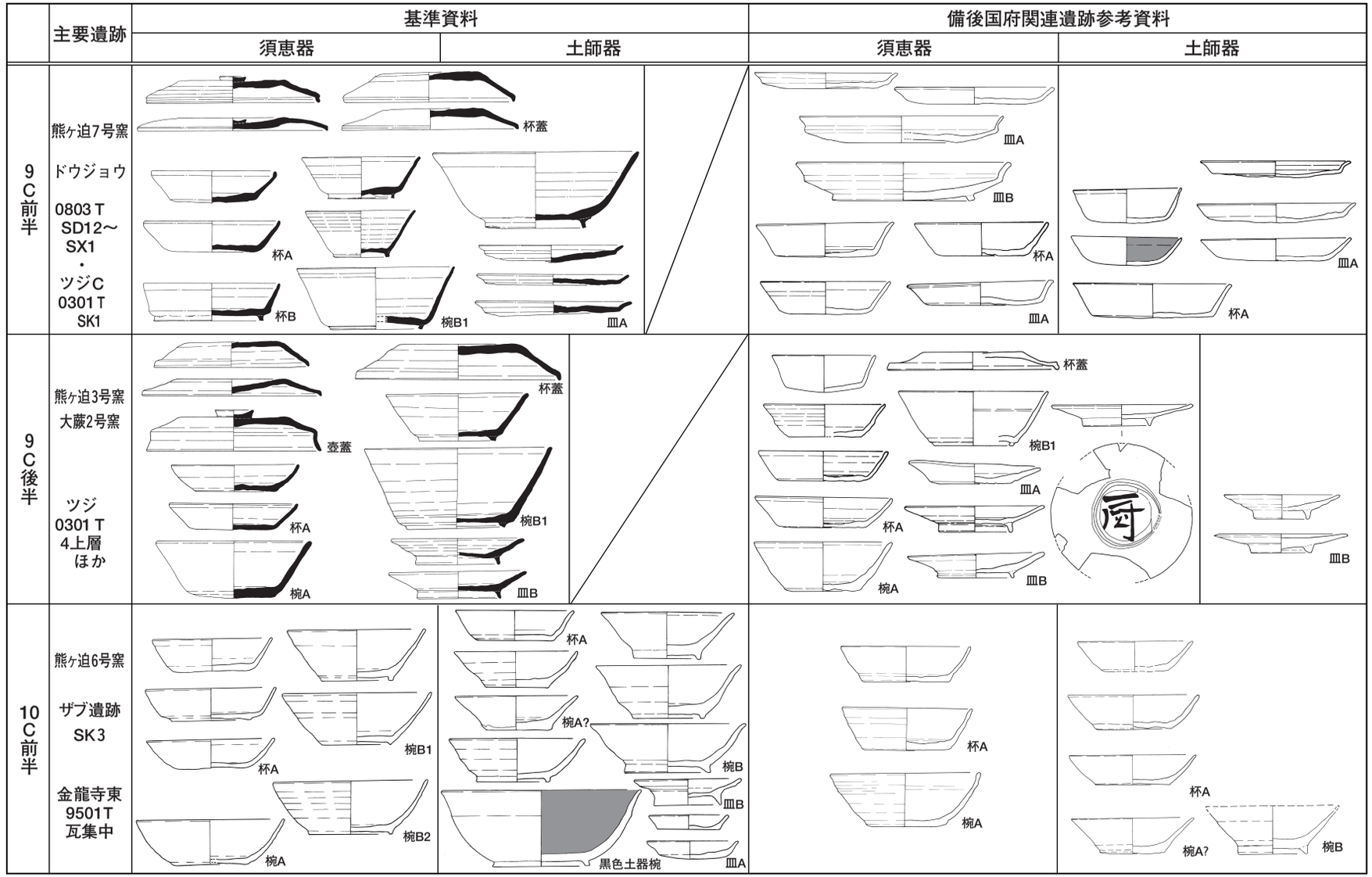


図5　備後国府関連遺跡の土器変遷図（2）（縮尺1/6）

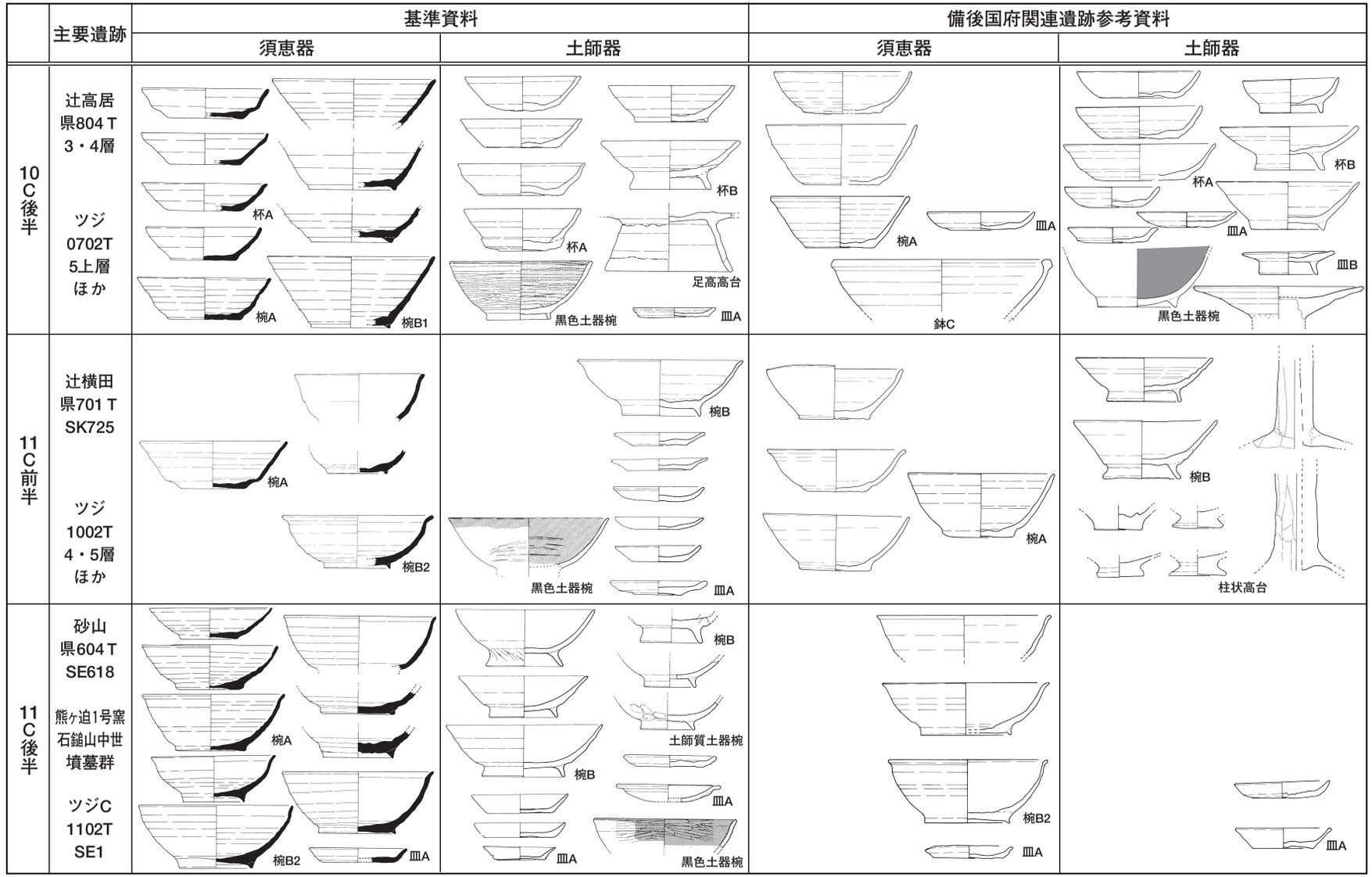


図6　備後国府関連遺跡の土器変遷図（3）（縮尺1/6）

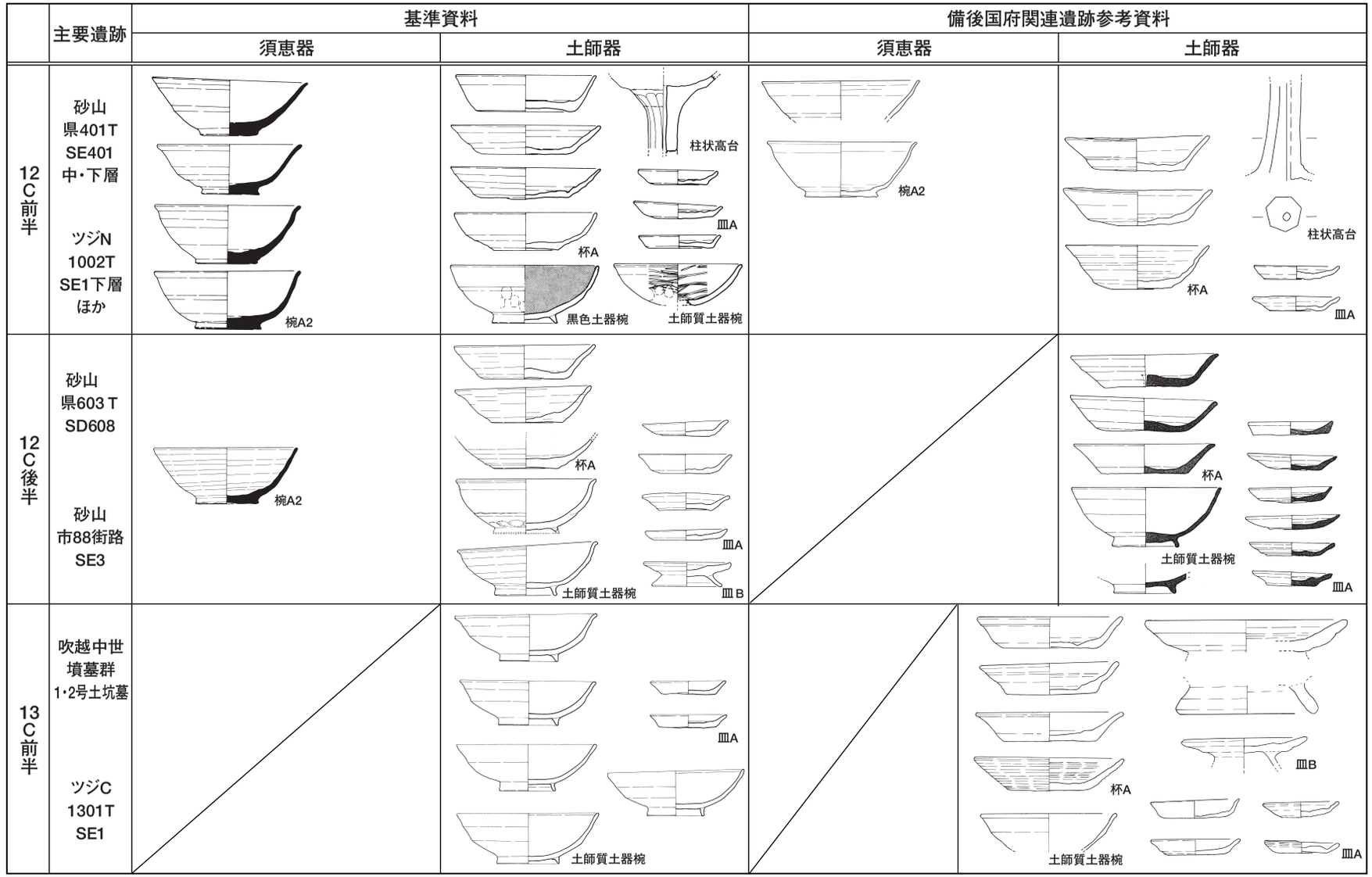


図7　備後国府関連遺跡の土器変遷図（4）（縮尺1/6）

備後国府関連遺跡出土資料を用いた土器の年代観をテーマに，広島県教育委員会主催の技術研修会が平成25年7月17日に開催され，検討に参加いただいた出席者の方々から貴重なご助言とご指導をいただいた。本節を執筆するにあたり，出席者である庄原市教育委員会稲垣寿彦，東広島市教育委員会妹尾周三，廿日市市教育委員会藤田広幸，北広島町教育委員会沢元史代，同教育委員会山縣宏爾，比治山大学安間拓巳准教授，広島県立歴史博物館鈴木康之主任学芸員の以上各氏よりの貴重なご指導とご教示をいただき参考とさせていただいた。また，公益財団法人広島教育事業団県埋蔵文化財調査室の向田裕始氏にも別の機会を得てご指導とご教示いただいた。あらためて記すことで感謝の意を表したい。

引用・参考文献

石井清司 1995「篠窯須恵器」『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
唐津彰治 2005「安芸・備後 9 ・10 世紀土器の様相」『第 4 回山陰中世土器検討会資料集　平安時代前期の土器様相―中国地方を中心に―』山陰中世土器検討会
島根県教育委員会編 2013『史跡出雲国府跡－ 9 総括編－』
鈴木康之 1995「各地の土器様相　山陽西部」『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
鈴木康之 1995「土師質土器椀」『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
妹尾周三 2005「安芸地域－安芸国分寺出土資料を中心として－」『古代の土器研究会第 8 回シンポジウム資料集　古代の土器研究－聖武朝の土器様式』古代の土器研究会
高橋照彦 1995「緑釉陶器」『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
橋本久和 1992「土器研究と陶磁器」『中世土器研究序論』
橋本久和 2010「瓦器椀の地域色と分布」「中世成立期の土器様相」「土器･陶磁器が語る中世の流通」『わたしの中世土器研究』
橋本久和 2013「楠葉型瓦器杯の集成」『中世土器研究』133 号 中世土器研究会
広島県教育委員会 1973「ザブ遺跡」『山陽新幹線建設地内遺跡発掘調査報告』
広島県教育委員会・広島県埋蔵文化財調査センター 1981『石鎚山古墳群』
広島県埋蔵文化財調査センター 1984『小林 1 号窯跡発掘調査報告』
広島県埋蔵文化財調査センター 1984『下郷桑原遺跡』
広島県立埋蔵文化財センター 1986『備後国府跡－推定地にかかる第 4 次調査概報－』
広島県立埋蔵文化財センター 1988『備後国府跡－推定地にかかる第 6 次調査概報－』
広島県立埋蔵文化財センター 1989『備後国府跡－推定地にかかる第 7 次調査概報－』
広島県教育委員会・広島県埋蔵文化財調査センター 1990『備後国府跡－推定地にかかる第 8 次調査概報－』
広島県埋蔵文化財調査センター 2002『県営かんがい排水事業（三河地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告（２）』
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 1996『草戸千軒町遺跡発掘調査報告書Ｖ』
府中市教育委員会 1991『備後国府と鴻臚館・大宰府・西日本の国府』
府中市教育委員会 1996『埋もれていた府中～備後国府跡発掘調査物語～』
向田裕始 1996「広島県（瀬戸内中部Ⅰ）の 9 ・10 世紀の土器」『日本土器辞典』
向田裕始 2000「芸備地方における須恵器生産（２）―御調窯跡群の成立と展開―」『研究輯録Ｘ』
森隆 1995「黒色土器」『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
森島康雄 1995「瓦器椀」『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
山下峰司 1995「灰釉陶器・山茶碗」『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
山本信夫 2000「陶磁器分類」『大宰府条坊跡Ｘ･－陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会

本書の仕様

●版型・・・Ａ４判

●頁数・・・48頁（表紙・見返しを除く）

●印刷・・・オフセット印刷

●製版・・・ＦＭスクリーンで製版　175線

●用紙・・・表　　紙　アートポスト菊判　153㎏

　　写真図版　コート紙Ａ判　　86.5㎏

　　本　　文　書籍用紙Ａ判　　57.5㎏

●製本・・・無線綴

●編集ソフト・・・Illustrator CS3

備後国府関連遺跡1　－第一分冊－

府中市埋蔵文化財調査報告　第27冊

発　行　日　平成26（2014）年3月31日

編集・発行　府中市教育委員会

〒726-0003　広島県府中市元町1番地5

TEL0847－43－7180

印　　刷　凸版印刷株式会社